

やわらぎ

第18号
2015

yawaragi

学習院女子大学だより



和
やわらぎ

CONTENTS

President's Message	3	学長挨拶
Special Lecture by the Crown Prince	4	皇太子殿下特別講義 「世界の水問題の現状と課題」
Language Study Trip	5	2015年度 海外語学研修について
Japan in the World	6	特集 世界の中の日本 世界の中の日本語教育
International Workshop	8	国際研究集会「東の妖怪・西のモンスター」
Exchange Program with University of Perpetual Help	10	パーペチュアル・ヘルプ大学との交流
Japanese Association for Renaissance Studies	12	ルネサンス学会
Gakushuin Women's College Institute of International Studies	13	2015年度における国際学研究所 (GIIS) の取り組み
Special Lectures	14	本学で開催された特別授業
GWC Scholarly Meeting	16	学習院女子大学学会より
Academic Conferences Held on Campus Visiting Researchers	17	本学で開催された学会・研究会 2015年度客員研究員受入一覧
New Faculty	18	新任専任教員紹介
Faculty Publications	19	専任教員著作紹介
From the Library	20	図書館からのお知らせ
Study Abroad	21	留学情報
International Student Activities	22	留学生行事実施報告 国際交流会 ～七夕の夕べ～ 留學生日帰りバス旅行 ～日光東照宮・益子焼き体験～ 留學生の話を聞こう！ 学内留学フェアの開催
International Students at GWC	24	留学生報告
Extracurricular Activities	27	輔仁会団体紹介
Miyabi Festival	28	雅祭を終えて
Yawaragi Festival	29	「和祭」を振り返って
Graduating Seniors' Employment	30	学習院女子大学の就職力
Job Seeker's Reports	31	内定者からの声
From the Career Support Division	32	キャリア支援部からのお知らせ
From the Parents' Association	33	学習院父母会の近況報告
From the Sojokai Alumnae Association	34	草上会からのお知らせ
GWC Data	36	学習院女子大学データ
Academic Calendar	37	平成28年度 学年暦
	38	Topics

「自由」と「束縛」の中で

今ではあまり使われなくなりましたが、かつてよく「シンガーソングライター」と呼ばれる人たちがいました。これは文字通り、自分で歌を作って自分で歌うという人のことです。もちろんそれ以前にもそういうことはなかったわけではないと思いますが、一般的に言われ始めたのは、1970年代あたりからでしょうか。それまでは、作詞家・作曲家と歌手とはそれぞれ別で、歌手は作ってもらった曲を歌う存在でした。それがたぶん当時、フォークソングが広がる中で、彼らが自分たちの歌う歌を作るようになったのが大きな流れだと思います。そして今では改めてそんな言葉を使う必要もないほど、普通のことになりました。

こうした行為は「自分が歌いたい曲を、自分でつくって歌う」ということであり、「歌い手（今はアーティスト）というようですが」の「自由」を意味します。それは自分の気持ちに近い曲を歌いたいということから考えれば自然な欲求であり、私はそれを肯定的にとらえることはあっても、それ以上の問題意識はもっていませんでした。しかしかつてある音楽関係者がこんなことを言っているのを耳にして、改めて考えさせられました。それは「自分が歌うことを前提に曲を作ると、自分が歌える範囲内でしか曲を作らないようになる」というものです。

同じではないにしても、「なるほど」と思える指摘でした。これをよりネガティブな表現にすると、最初から自分で、自分の世界と音楽的な限界を設定しているために、一定以上の進歩がなくなるというようにもできます。

確かにかつての歌手は、（その間に音楽プロデューサーという人もいるのですが）作曲家や作詞家から与えられた曲が、自分が今まで歌ったことも想像したこともない音楽や曲の世界であつても、それに立ち向かい必死に練習して自分のものにしなければなりません。それは自分が全くチャレンジしたことの新しい曲を与えられることで、自分の歌い手としての新たな能力が開花して、もう一歩先の世界に進むことができることもあるということの意味します。実際に、歌手の人からそのような言葉を聞いたこともありました。

私は基本的に個人の「自由」は十分に尊重されるべきであるという立場をとります。その上で、このように「自分が思うものを思うように行う」という自由には、世界を狭くしてしまうという欠点もあるのだということ指摘しておきたいと思えます。

もちろんそれは音楽に限りません。自分で何かを考えたり何かを設定したりする場合に、やはり自分のそれまでの世界を前提にすることが普通です。「自分の自由だから」というのは一見いいことに



学習院女子大学長
石澤 靖治

聞こえますが、それだけでは自分の殻を破ることはできません。

このことは全てのことに通じます。大学の役割というものについても、同様に考えてみることもできます。それは学生の自由を尊重しつつも、こちらからある一定の負荷というか、学生がどうにか限度を超えられる程度の課題を設定する必要性です。それはある種の「束縛」ですが、学生がそれに直面し、それを超えようとして必死に努力することで、自分の新しい能力を見つけることができます。ただしその場合に、大学が合理的でない課題を設定して「束縛」することは意味がありません。学生それぞれの能力や状況を見ながらのものでなくてはなりません。そして手をかけすぎず、その一方でしっかり指導しつつ、学生の挑戦を見守る必要があります。大学とは教員と学生の「自由」と「束縛」との緊張感の中で存在するものだと思います。

皇太子殿下特別講義

世界の水問題の現状と課題

UNSGABでの活動を終えて

12回目となる皇太子殿下の特別講義が1月22日午後1時から「世界の水問題の現状と課題 UNSGABでの活動を終えて」と題して222教室で行われ、学生、教職員を合わせ約200名が受講しました。殿下は、2007年に「国連水と衛生に関する諮問委員会(UNSGAB)」名誉総裁にご就任され、活動が終わる昨年まで世界の水問題に取り組まれました。ご講義では、殿下が約10年、関わられた世界の水問題の現状と課題について、お話しになりました。



量には地域による偏りがあることを紹介し、水不足のサブサハラ・アフリカとの水利利用の比較などを交えつつ、人の生存に必要な水資源量やその用途について、お話しになりました。つきに、人々の水を求める取組として、大伴家持の長歌、紀伊国柿田荘、江戸期の灌漑技術を例に挙げ、古代から近世にかけての我が国の歴史を振り返られるとともに、明治以降の安全な水道水の供給と乳幼児死亡率や平均寿命の関係について、お話しになりました。次に海外の事例として、ネパールにおいて、近年、水施設の整備によって乳幼児死亡率が改善していること、民族間の衝突によってインフラが崩壊したキルギスの村落においてUNHCRの支援によって水道ポンプが敷設された事例、野外排泄が衛生面だけでなく社会問題にもなっているインドにおいて、トイレ整備と野外排泄撲滅を目指す取組が進められていることを例に挙げて、安全な水の供給と衛生施設の整備について、お話しになりました。

次のテーマである「水と災害」については、我が国の南海・東南海地震に関し、地震発生メカニズムをご説明され、684年の白鳳地震についての日本書紀の記述、1854年の安政南海地震における「稲むらの火」の故事などを紹介された上で、地震や津波に対する防災意識の必要性について、平成27年の和歌山県及び平成26年の徳島県行啓の際のご体験も交

えつつ、お話しになりました。また、昨年9月の関東・東北豪雨を例に挙げられた上で、効果的・効率的な堤防などの施設整備とともに、住民一人一人も防災意識を持ち社会全体で備えることが必要であることや、世界各地で発生する甚大な水災害とその対策について、お話しになりました。

最後のテーマである「水問題への対策」としては、世界で起きている水問題への日本の関わりについて、お話しになりました。モルディブの政府首脳から、我が国の無償資金協力で整備された護岸工事によって2004年末のスマトラ沖大地震及びインド洋津波でも深刻な被害を回避できたとして感謝されたエピソードを紹介され、また、私たちにも身近な事例として、学習院海外協力研修プログラムに参加した学習院大学の学生や先生がタイの村落に3週間滞在して、簡易水道施設用の貯水槽の建設に携わった事例などについて、お話しになりました。

冒頭、殿下は、水上交通の観点から水の問題に興味をお持ちになった学生時代のご研究「学習院大学・オックスフォード大学(留学)」、1987年にネパール国を御訪問された際に水くみをする女性や子供を目にされ、「水くみをするのにいったいどのくらいの時間がかかるのだろうか。女性と子どもが多いな。本当に大変だな。」と素朴な感想を持たれたご体験、2003年以降の世界水フォーラムにおけるご活動や2007年以降のUNSGABの名誉総裁としてのご活動など、水問題に関心を持った経緯とこれまでの関わりについて、お話しになりました。

最初のテーマである「水不足と衛生」については、まず、地球上に水が存在するに至った歴史に触れた上で、世界の水資源

率を改善していること、民族間の衝突によってインフラが崩壊したキルギスの村落においてUNHCRの支援によって水道ポンプが敷設された事例、野外排泄が衛生面だけでなく社会問題にもなっているインドにおいて、トイレ整備と野外排泄撲滅を目指す取組が進められていることを例に挙げて、安全な水の供給と衛生施設の整備について、お話しになりました。

次のテーマである「水と災害」については、我が国の南海・東南海地震に関し、地震発生メカニズムをご説明され、684年の白鳳地震についての日本書紀の記述、1854年の安政南海地震における「稲むらの火」の故事などを紹介された上で、地震や津波に対する防災意識の必要性について、平成27年の和歌山県及び平成26年の徳島県行啓の際のご体験も交

最後に、殿下は、国連ミレニアム開発目標の達成状況や、昨年採択された持続可能な開発目標(SDGs)の水に関する目標について紹介された上で、世界の水問題に目を向けることや防災意識の重要性についてお話しになりました。締め括りとして、「立山のかぶさる町や水を打つ」(前田普羅)の句をご紹介になり、人々がどこでも水とともに平和にゆつたりと過ごせる世界の実現のため、今後とも取り組んでいきたいと思っ

ていらつしゃる旨、お話しになりました。殿下の水問題の幅広い知識、ご経験と真摯な取組が感じられるご講義でした。

(国際コミュニケーション学科 教授 畠山圭一)

2015年度 海外語学研修について

英語コミュニケーション学科
教授 岩崎 光洋

カナダ語学研修

8月15日から9月15日(32日間)、カナダのアルバータ州レスブリッジ大学にて実施。カルガリー市からバスで2時間ほどに位置するレスブリッジ大学は6学部約9千人の学生が集う名門校です。街の人口は約8万3千人です。日本からの移民の方々も多く、街の中心部には日本食レストラン、ラーメン店などもあります。とにかく広大な大自然が何よりの魅力です。基本的にカナダでは18歳を過ぎれば大人として扱われ、自由と自己責任のバランスを強く意識します。この点に関しては、最近の日本の学生は余りにも自己責任に関する意識が薄く、自分の自由ばかり



りを主張するわがままな行動・言動が目立つようにも思われます。この点に関しても、ホームステイでの生活、ルールを尊重しながら、いかに楽しく、快適な環境を共有し合えるかが問題です。価値観も習慣もまるで違うファミリーとの日常生活は貴重な異文化体験の場であるとともに、日本文化のすばらしさを再認識する良い機会ともなります。月曜から金曜までの授業では会話の発信・受信力を身に付けることを主体に、アクティビティーを織り交ぜながらカナダの歴史・芸術・文化に関する知識も習得できたはずですが、発信するものがなければ、会話は成立しません。常に人を引き付ける魅力ある話題にアンテナを向けてください!

オーストラリア語学研修

2月12日から3月9日(26日間)、オーストラリアのメルボルン、デューキン大学にて実施。メルボルンはシドニーに次ぐ最も英国的な雰囲気を残す緑とドラム電車の走る美しい400万人の大都市であり、さまざまな人種の人が暮らす国際都市でもあります。日本人から見ると何事にもアバウト、おおらかな性格で、人生を楽しむことに長けているなど実感させられます。ホームステイ先にはベジタリアンの方もいるので、そんな学生はたまには街の中心部を流れるヤラ川、メルボルン大学キャンパス、美術館などを巡り、栄養補給とカフェでティーをするのも最高です。基本的には働いている女性が多く、シングルマザーの家庭



も珍しくありません。良い悪いは別にして、将来の女性の生き方を考えるには示唆に富んだ街であるかもしれません。オーストラリア英語は、アメリカ英語で育ってきた学生には、最初は多少戸惑いを感じるかもしれませんが、2週間もすればすぐに慣れるものです。Tシャツにサンダル、サンングラス、そんなカジュアルな服装で気軽に英会話を楽しむことが何より似合う街かもしれません。ただし、物価は東京並なので、しっかりと知識欲を旺盛にして研修する姿勢が大切です。

特集

世界中の中の 日本語教育

国際交流基金による2012年の調査によれば、世界の16,046の機関で約399万人が日本語を学んでいるとされています。その内訳は、中国、インドネシア、韓国のアジア勢だけでほぼ全体の70%を占め、ついでオーストラリア、台湾、米国と続きます。世界にこれだけの学習者がかかる背景として、GDP世界第3位の日本の経済力があるのはいうまでもありませんが、同調査では54.0%の被調査者が「マンガ・アニメ・Jポップ等が好きだから」と答えており（複数回答）、改めて日本のサブカルチャーの底力を感じさせます。実際に本学の留学生に話を聞いてみても、日本のサ

「デンベエ」

（日本語教育史）

日本文化学科 教授
佐藤 琢三

ブカルチャーに対する造詣の深さに驚かされることもしばしばです。

では、日本語教育の歴史をさかのぼるといつの時代のどこにたどり着くのでしょうか。近隣のアジアでは、1414年の朝鮮王朝にて、司訳院

の科目に日本語が加えられたとされています。司訳院とは、朝鮮において外交に必要な通訳の業務や養成を行っていた機関です。日本の歴史と朝鮮半島との関わりのは深さは、このようなどころにも表れています。



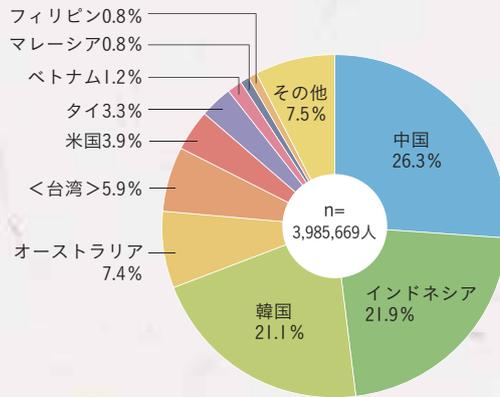
ピョートル大帝

アジア圏以外で日本語教育の歴史が最も古いのはロシアです。1705年、首都ペテルブルグに設けられた日本語学校が世界最古の日本語教育専門機関であるとされています。シベリア開発を進めていた当時の帝政ロシアは、北太平洋沿岸に達しつつありました。鎖国中の日本には、薪水、食料の供給源としての役割が期待されていました。もともと、広大なシベリアによつて日本と隔てられているロシアに、日本語教師の役割を担える人材がいるわけがありません。そこでロシアが目をつけたのは日本人の漂流民たちでした。栄えある世界初の日本語教師（？）は、デンベエ（伝兵衛）という名の漂流民です。大坂商人のデンベエは、1695年、江戸へ向けての航海中に嵐に遭い6カ月にもわたり漂流、カムチャッカ半島に漂着しました。無事に救出されヤクーツクに送られたデンベエは、1702年、モスクワにてピョー

学習者数



各国・<地域>別学習者数の割合



トル大帝に謁見します。北太平洋地域に野望を抱いていたピョートルは、デンベエにロシア語を習得させ、新設した日本語学校の第一号の日本語教師として日本語を教えさせたのです。デンベエはガブリエルと名乗り、ロシアに帰化し、その生涯を日本語教師として終えました。ちなみに、デンベエはロシア正教史上初の日本人信徒であるとされています。

日本国内に目を向けますと、日本語教育というよりも日本語学習の歴史は、16世紀以降のイエズス会宣教師らの活動にさかのぼります。フランシスコ・ザビエルが来日したのが1549年でしたが、1639年のポルトガル船来航禁止令(鎖国令)のころまでの約一世紀にわたって宣教師たちの日本語習得の苦闘が続きました。大航海時代のポルトガル、スペインからやってきた宣教師たちは、キリスト教布教というミッションに並々ならぬ決意を持って来日しましたが、彼らの言語とまったく異なる日本語の習得は、時に絶望的な壁に感じられたようです。三度にわたり来日したアレシヤンドロ・ヴァリニャーノは、日本語の語彙のニュアンスと豊富さ、男女間の言語的性差、複雑な敬語体系、話し言葉と書き言葉の文体的特徴の乖離

などを指摘し、キリスト教徒に対して日本語で説教できるようになるには、どんなにがんばっても15年はかかり、ましてや異教徒に対する日本語での説教などという無理であると、その絶望的な困難さを嘆いています。そのような困難を経て、やっと彼らの日本語教育が組織化されるのは、1581年のことです。ヴァリニャーノは宣教師の日本語教育を組織的に行えるようにするため、コレジオ(学林)、ノビシアド(修練院)、セミナリオ(神学校)からなる教育機関を設立し、はじめて組織だった日本語教育が可能となったのです。

明治以降、清国や朝鮮などから来日した留学生に、広く日本語教育が行われました。アイヌや沖縄の人々に対して行われた教育も「日本語教育」であったと言えるでしょう。また、日本の植民地となった朝鮮・台湾の人々に対する教育は日本語の普及を進めました。しかし、複雑な歴史的問題を残しましたが、他方、米国では日露戦争後から仮想敵国となった日本の研究の「環」として、日本語の教育と研究の組織化が進められました。日本語教育が歩んできた道のりは、世界との関わりが飛躍的に深化し複雑化した日本の国際関係史そのものなのです。



学界初のテーマ 「東の妖怪・西のモンスター」

日本文化学科教授 徳田 和夫

昨年の10月31日(土)、11月1日(日)に、本学は掲題の国際研究集会をもちました。奇を衒うようなテーマですが、オタク系メディアに迎合したのではなく、民俗学、説話・伝承学、そして比較文化論の分野で論議すべきと提起したものです。東北アジアの妖怪研究はこの二十年ほどで活発化し、妖怪文化論として実を結んだ現在、新たな展開を期したのです。

平成27年度から、学校法人学習院戦略予算による事業「日本文化研究と国際文化交流」がスタートしました。本学の国際文化交流学部が理念を踏まえ、三か年にわたって日本の民俗、文学、歴史、また言語、アート・マネジメントを国際的に探究し、国内外の学術交流をはかるものです。その第二弾として学部の主催、国際学研究所の協賛を得ておこないました。

ちなみに、初日はハロウィンの祝祭日でした。じつはテーマに合わせての日取りです。ハロウィンは日本では単に仮装パーティ・パレードほどに理解されていますが、さかのぼると、古代ケルトにおける春迎えの祖霊祭りにたどりつきます。ケルトの民は先祖の「あの世」からの来訪のさまを劇に仕立てました。現代でも目だつ死神や亡霊、魔女の扮装はここに始まっています。子どもたちが「Trick or treat(たますぞ、歓待しろ)」と囁くのは、もとは異界の霊がこの世に登場するときのあいさつに始まっています。南瓜のジャック・ランタンは日本の盂蘭盆会の盆提灯に対応します。

このように、人間が霊的な存在を意識するところに、妖怪やモンスターが造形されました。その

観想は、古くからの東西共通の精神文化です。大きくは宗教や信仰にかかわり、はやくから民間伝承や創作文芸、演劇に、また絵画、装飾に表象されてきました。現代でも映画・アニメ、小説、コスプレなどのポップカルチャーがこれを取りあげています。

もともと妖怪ということばは、人知では理解できない現象に用いましたが、やがて不気味な事態を引き起こすそのものを指すようになりました。ここには、自然界の万物は霊を宿しているという素朴な精霊信仰(＝自然崇拜)が作用しています。人々は、動植物や、山・海・森・川・湖沼・巨岩などは、その霊が人間社会とのバランスをくずすと異形となつて現れると考えてきたのです。自然災害もそれに当たります。また、道具なども古くなると変化するとし、付喪神と名づけました。総じて「お化け」と呼んで、とくにその怪異を強調してきたのです。目に見えない、闇の恐怖ということから「物の怪」とも、「鬼」ともいい、江戸時代からは成仏できない幽霊もこれに組みこんできました。

モンスターは異体獣、異象人のことで、日本語では「怪物」です。西欧では、紀元前から話題にしている、古代ローマ帝国の博物学者プリニウスの『博物誌』に早くも満載されています。いうならば幻想動物であり、当初は自然の猛威を形象化して、やはり精霊信仰を背景としていました。やがてキリスト教が広まると、反キリストの象徴ともなつて多種多様となりました。また中世、ルネサンス期では盛んに動物誌が編纂され、奇想天外



なものがぞろぞろ並んでいます、基本的には気味悪い実在動物をモデルとしています。それを巨大、グロテスクに創り、おおげさな言辞を付けたりして、東方世界の驚異などしました。このいとなみは近代まで続き、建築物の装飾にならたりしています。

そうした妖怪とモンスターは、内質や形状に類似が認められ、比較対照が待たれます。

たとえば、ハリ・ポッター・シリーズの第2作『ハリー・ポッターと秘密の部屋』に登場する巨大な蜘蛛アラゴグは、映画『ロード・オブ・ザ・リング』の原作『指輪物語』シリーズの『二つの塔』に出るシエロブの仲間ですが、日本で相当するのは「土蜘蛛」です。室町時代の能や絵巻では武士がこれを討ち取っています。またハリが立ち向かう大蛇バジリスクは、これに睨まれると石に化すと伝わっていて、彼は剣に映したして近づき退治します。源流はギリシャ神話のペルセウスのメドゥサ退治ですが、日本にも古代から大蛇退治譚がたくさんあります。

バジリスクはオーストリアのウィーンではバジリスケンと呼ばれています。これは鶏・蝦蟇・蛇の混合獣(鶏・ゴジラのような混合動物)です。夜な夜な地底から井戸をはい上がって現れ、女性をさらっていきます。住民は恐れるばかりでしたが、賢い少年が鏡をもち出して照らして打ち負かします。バジリスケンは自らの眼光や醜い姿に驚いて墜落し、二度と現れなかったと伝わります。こうした鏡を用いて怪物や妖怪をしりぞける、その本性を暴くという説話はインドから東北アジアにかけても多くみられます。

他にも、海の猛威をあらわす海坊主とクラークン(海の僧侶・海の司教)、飛翔する異形体の天狗と風の神ガルーラ、道具のお化けによる家鳴りとポルターガイスト、ドイツニー・アニメ『美女と野獣』の燭台と『百鬼夜行絵巻』(京都芸大本など)の灯台など、枚挙にいとまがありません。「ファンタジイと妖怪・モンスター」といった問題設定も面白いでしょう。

研究会では他の事例が多様に取りあげられました。談論風発の討議がなされ、比較文化の収穫に恵まれたのは何よりです。

登壇された研究者は日本から8名、外国から5名の、望み得る限りの陣容によって、三つの講演・二種のシンポジウム、五本の研究発表を繰り広げました。研究発表には根占猷教授が加わって下さり、司会は非常勤講師の伊藤慎吾、岩崎雅彦、恋田知子先生に労を賜りました(詳しくは『趣旨・要旨集』をご覧ください)。そのすべてを書籍にまとめて、今秋の刊行を計画しています。

なお、広報の甲斐あって聴衆は初日が二百五十名、二日目は二百名ほどを数え、盛会となりました。また、企画展示「妖怪のビジュアル・カルチャー」(文化交流ギャラリー)を開催し、こちらも大勢の方が観覧においでくださいました。

曲りなりにも所期の目的を果たし得たのは、国際学研究所の瀬戸百代さん、同所の前客員研究員レイチェル・スタウムさん、また副手・教職員の方々、学部・大学院の徳田ゼミの学生の皆さんの多大なご協力があったことです。ここに深謝する次第です。



フィリピンの協定校

パーペチュアル・ヘルプ大学 との交流について

平成27年3月、フィリピン、マニラ市にあるパーペチュアル・ヘルプ大学（以下、UPH）と学術交流に関する協定を締結いたしました。UPHは、マニラ郊外に位置し、幼稚園から大学院まで備えたフィリピンでは最大規模を誇る総合私立大学です。

協定締結後、早速活発な学生交流が始まり、9月には課外活動での交流が、また10月にはUPHからの学生訪問がありました。

学習院女子大学チアリーダー部の 遠征について

去る9月9日から11日の3日間、学習院大学応援団チアリーダー部および学習院女子大学チアリーダー部の2年生から4年生までの部員23名がUPHのチアリーダー部との交流を目的に初の海外遠征を行いました。

UPHでは、熱烈な歓迎を受け、レセプションに引き続き、両校合同練習を行いました。UPHのチアリーダーは男女混合チームであるため、女子のみの学習院の学生は、初めて男子部員と一緒に練習、演技を行いました。男子部員らによるリフトで学習院の女子部員が次々に空中高くジャンプする、この光景が今回の交流での一番のハイライトシーンでした。学生たちは遠征前に心配していた英語によるコミュニケーションの壁を感じさせることなく、同じアスリートとして、競技に対する意見や情報交換を楽しんでいました。最後には、両校の模範演技が行われ、UPHの男女混合チームの華やかでアクロバティックな演技に対し、学習院は伝統的なシンクロナイズドされた美しさを発揮し、それぞれの良さが十分に披露されました。

会場を去る際には、両校の学生たちが互いに記念写真を撮りあい、いつまでも別れを惜しみ、今回の交流が大成

功であったことを証明していただきます。その後、学習院の学生たちは別のキャンパスに移動し、総長のアンソニー・タマヨ氏を敬訪問、短い歓談を楽しみました。

2日目は、UPHのキャンパス・ツアーと授業見学および学生たちとの交流が行われました。パイロットや整備士を養成するアビエーション学科では、飛行機の操縦を学ぶフライト・シミュレーションを体験したり、ホスピタリティ学科では、テーブルセティングやフラワーアレンジメントの実技体験を行いました。

実質2日間の短い訪問でありましたが、大変充実したフィリピンの遠征であり、今後の交流の発展が期待できるものとなりました。



パーペチュアル・ヘルプ大学からの 学生訪問について

10月には、UPHからインターナショナル・ホスピタリティ・マネジメント&ツーリズム学部の教員2名と学生26名が本学を訪問しました。

石澤学長の挨拶の後、国際コミュニケーション学科ウーゴ・ミスコ准教授による日本文化に関する講義を英語によって行いました。日本に関する画像を紹介しながらの講義は、初めて日本を訪れる学生にとっても、大変分かりやすいもので、日本を深く知る良い機会になったと好評でした。

その後、今回の案内を申し出てくれた本学のボランティア学生と一緒に、日本文化学科品川明教授のフードコンシャ

スネス論のクラスを訪問し、日本の大学の授業風景を見てもらうことができました。また、品川教授からもフィリピンに関する質問が投げかけられ、つかの間の交流が展開されました。

授業の後には学食でボランティア学生とともにランチを摂り、それぞれテーブルでは、学校のこと、クラブ活動のことなど同年代の学生同士、話しが弾み、最後まで名残惜しそくに写真を撮ったり、連絡先の交換をし、今回の訪問を終えました。

同校とは、協定を締結したばかりではありませんが、今後もより活発で実りある交流が長く続くことを予感させるすばらしい1年となりました。



University of Perpetual Help



ルネサンス学会とともに 数々の国際シンポジウム開催

根占 献一

「国際コミュニケーション学科教授・
文学博士、図書館長」



2013年4月1日からの3年間は、私の学究生活のなかでも繁忙を極める日々となりました。これは「西欧ルネサンスの世界性と日本におけるキリシタンの世紀」の題目で、文部科学省のいわゆる競争的資金たる科学研究費を獲得できたことが大きかったためです。欧米狭し、と科学思想史研究で活躍中のヒロ・ヒライ博士を中心とする若手研究者有志からの願いを受けて、その代表となった結果でありました。

米国ルネサンス学会開催中のサン・デイエゴで採択を知りました。3年前のことです。代表である以上、責任を伴います。通つたときは安堵し、米国で祝杯をあげました。こうして3年連続、7月に学習院女子大学で国際シンポジウムを開催してきました。お迎えした海外研究者は本当に多数にのぼり、すべて英語での発表を2日間にわたって行ってきました。質疑応答もまた英語で行いました。その時の様子はYouTubeやインターネットを最大限生かして世界に発信されました。

私自身はルネサンス思想史が専門で、イタリアを中心にヨーロッパに行くことはありませんでした。アメリカ合衆国には専門家は大勢いても、同国に行く必要性を感じたことはほとんどありませんでした。しかし、この科研は外国での国際学会で発表を行うことをも目的にしています。若い仲間たちに交じって、私も昨年はニューヨークでのルネサンス学会で発表を行いました。世界中から研究者が集まり、数百に上る研究発表がある、最大規模の学会です。この3月末にはポストンでこの学会がありますので、再び渡米

し発表することになります。なお、昨春はベルリンでの大会に臨み、同じく発表を行いました。第2次世界大戦後は米国がルネサンス研究の中心となりましたが、戦前はドイツが優れた成果を挙げていました。ベルリンの大会はそれが分かる回顧的な講演もあり、有意義でした。

本務校での国際シンポジウムは科研関係だけではありません。2013年6月にはハーヴァード大学ルネサンス研究所ヴィラ・イ・タッティ（在フィレンツェ）の所長リーノ・ペルティエ博士たちを迎えてシンポジウムを開催し、私もこれにこたえて英語で研究を発表しました。また2015年3月には世界で最も古いアカデミーのひとつ、あのガリレオ・ガリレイも会員だったリンチェイ会員ジャンニ・パガニーニ博士の講演会を開催しました。博士は学習院の歴史に関心を寄せ、その正門写真が向こうの新聞に出て、話題となりました。

私はイタリア・ルネサンスが世界的広がりを有するという理念で研究してきました。以上の諸々の出来事はその良い証しとなったのではないのでしょうか。研究もまた際限なく世界に広がるのです。



2015年度における 国際学研究所(GIIS)の取り組み

学習院女子大学国際学研究所は、学習院国際交流基金の海外機関交流研究事業として実施している東アジア大学間学術交流事業の第7回国際ワークショップを、2015年7月に本学で開催しました。長崎

大学と共催した今回のワークショップでは、「東アジアの多文化共生・実態・政策・展望」というテーマが扱われ、延べ約160名が参加しました。とりわけ今回のワークショップでは、東アジアの各国・地域が多文化現象をめぐってどのような類似点と相違点があるのかを比較・分析し、真の多文化共生の可能性を模索する貴重な機会となりました。また、第8回ワークショップは、2016年3月に韓国・ソウルで開催されました。「『地域研究』としての東アジア」というテーマで、2013年に本研究所と協定を結んだ高麗大学校亜細亜問題研究所との共催で行われました。本学からは、根占献一教授、羅京洙准教授、金野純准教授の3名がソウルを訪問し、韓国と台湾の研究者たちと知的交流を深めました。

2015年12月には、一般財団法人ワンアジア財団助成講座「東アジア共同体論」と共同でシンポジウム「映像で結ぶ東アジア」を開催しました。ゲストとして、マレーシア出身で各地を放浪しながら国境を越え

て映画制作を行っているリム・カーワイ監督、上海在住で現地テレビやウェブ映像を通じて日本を紹介する番組を作るなど幅広く活動している日本人映像作家、松田奈月監督を迎えました。

また、2015年4月には「第2回GIISセミナー」を開催し、約120名が参加しました。今回のセミナーでは、ベトナムで弁護士として活躍するホアン・クエン氏を講師にお迎えし、「変容するベトナム社会における法の役割・女性弁護士との挑戦」というテーマのスピーチが行われました。近年著しい経済成長を遂げるベトナムにおいて、ジェンダーに関する変容と実態、女性の社会での活躍について、講師自身の経験をお話しいただきました。

さらに、本研究所は、中国・上海外国語大学の日本研究センターと学術交流に関する協定を結びました。本研究所としては、海外研究機関との協定締結の第2号となります。2015年12月、GIISの羅京洙副所長と金野純所員が上海を訪問し、協定調印と共に、同大学日本研究センターの許慈惠所長や関係者の方々と両研究所の今後の交流について話し合いました。今回の協定締結を機に、さまざまな学術交流が活発に展開されることが期待できます。

羅京洙

「国際学研究所副所長」
「国際コミュニケーション学」学科准教授



シンポジウム「映像で結ぶ東アジア」



上海外国語大学日本研究センターとの協定締結



第7回 東アジア大学間学術交流 国際ワークショップ

2015年度 特別授業の紹介

日本文化学科

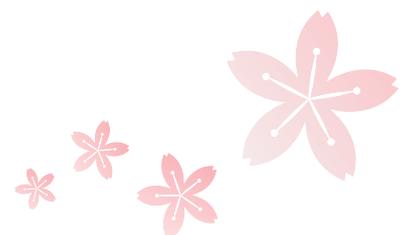
テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
日本酒入門	遊佐 勇人	人気酒造(株) 代表取締役	5月26日	5限	比較文化論VI(嗜好)	中野 美季
食文化 国際比較「台湾茶と用の美」	沈 甫翰	中国文化大学講師、 奇古堂(台湾茶、茶器などの美術ギャラリー) 社長	5月27日	4限	比較生活文化論I (地域食文化論)	磯部 泰子

国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
日韓交流:日本の中の韓国、韓国の中の日本	崔 玄洙	韓国国際交流財団 東京事務所長	6月17日	4限	国際コミュニケーション 基礎演習IK・IIIK	羅 京洙
ピサの歴史と文化	大西 克典	東京大学大学院人文社会系研究科 研究員	6月18日	1限	イタリア文化論I	根占 献一
現代社会における日本語と放送	塩田 雄大	NHK放送文化研究所 研究員	7月8日	2限	社会言語学I	福島 直恭
開発援助活動の意義と課題	白幡 利雄	特定非営利活動法人AMDA社会開発機構 海外事業部	6月23日	2限	国際開発論I	伊藤 由紀子
海上自衛隊の活動と国際法	吉田 靖之	海上自衛隊幹部学校 運用教育研究部図演装置運用課 2等補佐	7月2日	3限	国際法I	櫻井 大三
外交と報道の現場からみたイスラム世界	新谷 恵司	エリコ通信社 代表取締役	11月10日	2限	イスラム文化論II	小野 仁美
映画の中の「ユーゴスラヴィア」 —サラエヴォの記憶から学ぶ—	門間 卓也	日本学術振興会特別研究員(東京大学)	10月30日	3限	東欧文化論	中島 崇文
アルメニア人虐殺	吉村 貴之	早稲田大学イスラーム地域研究機構 研究員准教授	10月28日	2限	ヨーロッパ政治史II	武井 彩佳
東ドイツの政治と日常生活	河合 信晴	成蹊大学法学部非常勤講師	11月9日	2限	ドイツ文化論II	武井 彩佳
なぜNPO法人か —NPO法人 新宿のゆったり〜の—	小原 聖子	NPO法人代表	12月1日	2限	ボランティア論II	伊藤 由紀子
日韓の文化交流	洪 志環	駐日本国大韓民国大使館 文化広報官	12月2日	4限	国際コミュニケーション 基礎演習IIK・IVK	羅 京洙
琉球政府時代の公文書で読み解く沖縄の歴史	堀川 輝之	沖縄県南城市役所文化課市史編纂室 嘱託員	12月11日	4限	国際コミュニケーション 基礎演習IIM・IVM	櫻井 大三
科学の革命を記録する:十七世紀機械論と歴史学	坂本 邦暢	立教大学兼任講師	12月17日	1限	ヨーロッパ文化論	根占 献一

日本文化学科・国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
日本人と糴〜糴の伝統と革新	浅利 妙峰	南糴屋本店 代表取締役	1月15日	3・4限	日本文化演習N・ 国際コミュニケーション演習U	品川 明



共通科目

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
発達障害	平澤 恭子	東京女子医科大学医学部小児科学講座 准教授	8月11日	3限	幼児教育	澤口 聡子
スポーツと開発をめぐる国際状況	來田 享子	中京大学スポーツ科学部教授	11月20日	3限	生活環境論II 「ウェルネス論」	荒井 啓子
銀行員にとっての民法とは —民法実践講座—	小林 朝弘	住友信託銀行株式会社 新宿西口支店次長	11月16日	3限	法学II	櫻井 大三
太極拳と呼吸法	シン・イエニン	菅原総合武道研究所 師範、津田塾大学・東京女子大学 非常勤講師	1月14日	3限	スポーツ・健康科学演習II 「東洋の養生法」	荒井 啓子

学芸員課程

東日本大震災とアート桜3.11学校プロジェクト	松元 光司	福島県いわき市立好間第一小学校長	6月27日	4限	博物館演習IA	清水 敏男
博物館における資料撮影および写真の保存・活用	勝田 徹	国立歴史民族博物館 管理部博物館事業課専門職員	11月11日	2限	博物館資料論	松田 睦彦

国際文化交流研究科

日本の文化比較	Dr.Charlie Che/ Kimmochi Eguchi		5月15日	4限	文化経営学特殊研究	寺瀬 直博
企業メセナ活動の現在と未来	加藤 種男	公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事	6月27日	5限	文化マネジメント演習	清水 敏男
「恐怖」で集客する企画力	五味 弘文	おかけ屋敷プロデューサー/ 株式会社オフィスバーン代表	1月16日	4限	企画立案(文化事業)	清水 敏男

司書課程

国立国会図書館の電子図書サービス	橋詰 秋子	国立国会図書館電子情報部 電子情報流通課標準化推進係長	11月23日	1限	図書館基礎特論	江藤 正己
------------------	-------	--------------------------------	--------	----	---------	-------

「JMOOC」にて無料オンライン講座「日本のきもの —歴史と今—」配信

本学の新しい取り組みとして、日本文化学科 福島雅子准教授による無料オンライン講座「日本のきもの —歴史と今—」を11月3日から12月9日まで配信しました。「JMOOC」は、インターネットを通じて誰でも・どこでも・無料で大学レベルの講座を受講できる教育サービスです。本講座では550名を超える受講登録があり、海外の受講者も70名を超えました。美しい着物・浮世絵などの画像資料や、現代の染色職人へのインタビューも盛り込み、大好評の内に終了いたしました。

多くの人の「学びたい思い」に応えるべく「JMOOC」という新しい形で、来年度も魅力的な講座を発信いたします。どうぞご期待ください!



講座配信画面

担保から考える 企業と金融

2015年10月29日

国際コミュニケーション学科 教授
金城 亜紀



戦前の日本で重要な輸出産業であった製糸業とそれを支えた製糸金融に関しては多くの優れた研究蓄積があるもの、もっぱら産業史・産業金融史の二環として歴史的事実の考察に重きが置かれ、金融技術としての見方は限定的でした。本報告の目的は、先行研究の成果を踏まえつつ、製糸金融を日本独自の金融イノベーションの試みとして再構築することにあります。その上で、製糸金

庫などの動産や売掛債権などの債権を担保とする^{*}融資手法です。当該融資手法は、担保が不動産に過度に偏重していることへの反省として、バブル崩壊後に一般的な融資形態として定着している米国を見本として政府主導で日本に紹介されました。そのため、日本の金融慣行とは異質の外來種として認識されていることが多いようです。本報告では、そのような認識

融が借手と貸手間の情報の非対称性が顕著な中小企業に對する信用供与を可能にする金融のあり方を占うものとして、今日の私たちに有益な示唆を与えることを指摘したいと思います。

第一に、零細な中小企業が多く情報開示が不十分な製糸家に対し、動産や債権を担保として活用することにより外国貿易商、売込問屋、地方銀行、都市銀行ひいては日本銀行が有機的なネットワークを形成し、単独では負担することができないリスクを巧みに分担したスキームを形成していたことを明らかにしました。

は正確ではなく、実は戦前の製糸業界において、繭などの動産や、荷為替手形などの債権を担保とする融資手法が一般的かつ重要な金融の柱であったことを示しました。さらに、土地が担保として支配的な地位を占める以前の金融手法のあり方を通して、現在の金融が直面する課題に對してどのような示唆を与えるかを次の論点を中心に考察しました。



を試みました。具体的には、担保となつた資産の管理方法と現在の動産・債権担保融資を対比するとともに、担保の意義が換価価値による債権の保全に加え、担保を媒介として債務者や市場の情報収集するための手段であった可能性が高いことを指摘しました。

第三に、これらの考察の延長線上にある、現代の商業ファイナンスにとり有益な金融手法が何であるかを考えました。中小企業融資における情報の非対称性を緩和する手段として動産や債権を「情報担保」として活用できる可能性を検討することが日本経済を活性化するための課題といえます。

本学で開催された学会・研究会 2015.4.1~2016.3.31



団体名	責任者	会名称・内容	日時	参加人数
古事記学会	神田 典城	研究会	4月25日 9月19日 11月21日 12月19日	各40名
伝承文学研究会	徳田 和夫	研究会	月例会9回	各20名
関東日本語談話会	佐藤 琢三	研究発表会	5月9日 7月11日	各30名
日本フードサービス学会	品川 明	年次大会	6月6日	200名
ルネサンス研究会	根占 献一	学会発表会	7月4日	60名
Japanese Association for Renaissance Studies (JARS)	根占 献一	国際学会発表会	7月18日 7月19日	各80名
「ヨーロッパ辺境地域における文化の政治が表象する社会空間」研究会	中島 崇文	研究会	8月11日	6名
日本オリンピック・アカデミー	荒井 啓子	研究会	8月29日 2月7日	各50名
日本語／日本語教育研究会	佐藤 琢三	研究発表会	9月27日	100名
日本図書館情報学会	越塚 美加	研究大会	10月17日 10月18日	各160名
東欧史研究会	中島 崇文	研究報告会	10月18日	50名
日本語文法学会	佐藤 琢三	研究大会	11月14日 11月15日	各300名
現代史研究会・東欧史研究会	工藤 晶人	例会	1月24日	20名

2015年度 客員研究員受入一覧

氏名	所属	研究テーマ	受入部署	共同研究者	受入開始	受入終了
木村 恵子	神戸女子大学文学部 英語英米文学科教授、 同大学院文学研究科 英文学専攻教授	『道成寺縁起絵巻』絵解き説法研究並びに その絵解き説法から欧米人が受ける反応の研究	国際コミュニケーション学科	古庄 信	4月1日	3月31日
四方 八重戸	本学非常勤講師、 元国連職員	持続可能な開発目標(SDGs)を含む、 ポスト2015年開発アジェンダに関して: 持続可能な社会創りへのインパクトと ステークホルダーの動向を中心に	国際学研究所	畠山 圭一	11月1日	2016年 10月31日



日本図書館情報学会 (10月17、18日)



日本オリンピック・アカデミー (2月7日)

新任専任教員紹介

私は50歳になるまで、一介の実務家として、多くの方々に助けていただきながら、経営の前線で経験を積みました。(学習院の関係者には、女子短期大学の卒業生を含め、たいへんお世話になりました)。仕事をする中で自分なりに勉強した結果、気がつくくと経営学が専門になっていました。

ここ数年は、担保の本質について研究しています。今日の日本では、事実上、不動産しか担保として用いられません。しかし、このような状況は、むしろ例外です。実際、わが国の戦前の基幹産業であった製糸業では、担保資産の40%強は動産である繭や生糸でした。そこで、担保の本質に歴史をさかのぼることで接近することを試みています。

具体的には、諏訪地方の有力地方銀行であった第十九銀行がどのように繭を担保に融資を行っていたかを研究しています。当時の銀行は、借手の事業に自らが主体的に参画するために担保を活用していたようです。担保となった繭を乾燥し補完するために、大きな倉庫まで運営しています。かつての銀行には、自ラリスクをとり産業を興す精神があったようです。

不動産が担保であるとき、その主たる役割は債務不履行時における担保資産の換価による債権保全です。しかし、担保が不動産以外の資産、たとえば、在庫のような動産や売掛金のような債権

の場合はどうでしょう？不動産と異なり、動産や債権はその数量や価値が日々変動します。そのため、貸手は担保となった資産の状態を丁寧に把握する必要があります。その結果、換価に加えて、借手がどのような信用状態にあるかという情報を貸手が担保を通して得ることも可能になります。このように、担保の役割は、私たちが今日考えているよりも広く、柔軟であった可能性が高いのです。

今後の目標は、担保をテーマにした経営史、経済史を国際比較しながら紡ぎ、よい良い社会を築く一助にすることです。研究成果も学生さんの興味が高くなるように分かりやすく整理し、日々の授業や演習にも生かして参ります。微力ながらがんばりますので、どうぞよろしくお願ひします。

国際コミュニケーション学科 教授

金城 亜紀
(きんじょう あき)

略歴

東京大学教養学部卒、コロンビア大学経営大学院修了(MBA)、京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士(経済学)。日本興業銀行、米系経営コンサルティング会社、欧州系投資銀行、日



米合弁会社CEO、関西外国語大学教授を経て2015年4月より現職。主な研究業績:『事業会社のためのABL入門』(単著)日本経済新聞出版社。『The Role of Collateral in Asset Based Lending』(京都大学博士論文)。『How Asset Based Lending (ABL) Affect the Behavior of Regional Banks, The Annual Report of Economic Science, Kyushu Association of Economic Science, 52, 47-55, 等。』

JICA主催
「グローバル教育コンクール2015」で
「団体奨励賞」受賞

学習院女子大学の7年連続入賞が実現

「グローバル教育コンクール」は2009年度に外務省が主催を始め、2011年度以降は独立行政法人国際協力機構(JICA)が毎年、主催しています。

応募に際しては、例年通り中欧研修やジュネーヴ研修が紹介されたほか、今回はワシントン・セミナー参加者、米国やニュージーランドに留学した国際コミュニケーション学科の学生も協力し、入賞を果たすことができました。詳細はJICA地球ひろばのホームページをご参照ください。

http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/global_edu/index.html



荘林幹太郎教授が、
農業農村工学会賞
「著作賞」を受賞

国際コミュニケーション学科の荘林幹太郎教授が、平成27年度農業農村工学会賞の中の「著作賞」を受賞しました。同賞は、一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績に与えられるものです。

「農業直接支払いの概念と政策設計
—我が国農政の目的に応じた
直接支払い政策の確立に向けて—」
荘林幹太郎・木村伸吾 共著
農林統計協会
2014年2月刊

詳細は公益社団法人農業農村工学会ホームページをご参照ください。

<http://www.jsidre.or.jp/>

専任教員著作の紹介 | 2015.1.1~2015.12.31

※原則として単行書を取り上げ、著作形態および紹介文は教員の報告に拠っています。

キリスト教的学識者

—宗教改革時代を中心に—

教授 根占 献一 **翻訳**

知泉書館 2015.2

2017年は宗教改革が起こってからちょうど500年の節目の年を迎える。このため早くもいろいろとヨーロッパではこの意義をめぐる議論が起こっている。原著はずいぶん前に出たが、現ヨーロッパを知るうえで必読文献と考え、翻訳をしたもの。



台頭するインド・中国 相互作用と戦略的意義

教授 畠山 圭一 **共編著**

千倉書房 2015.3

サントリー文化財団助成研究「2030年の世界」(代表:畠山圭一)と高橋産業経済研究財団助成研究「台頭する印中」(代表:田所昌幸・慶大教授)の共同研究の成果。二つの巨大国の台頭による影響を日英の研究者7人が探る。



文法・談話研究と 日本語教育の接点

教授 佐藤 琢三 **共編著**

くろしお出版 2015.4

「日本語学」建学以来の課題ともいわれる、文法、談話の研究と日本語教育の現場を有機的に結びつける試み。15篇から構成される論集。巻末で、日本語の教育と研究の歴史を対談形式で振り返る。



「近世化」論と日本

—「東アジア」の捉え方をめぐって—

教授 根占 献一 **共編著**

勉誠出版 2015.6

グローバル化の時代にあたって、日本の歴史を一國史の枠を超えて、世界史の視点で検討することが活発になった。本書は近世における日本の位置を東アジアの歴史的な脈で考える意欲作。



現代中国政治研究 ハンドブック

准教授 金野 純 **共編著**

慶應義塾大学出版会 2015.7

現代中国政治研究に関して、海外を含むこれまでの主な研究・文献を分野別に整理し、問題設定・アプローチ・今後の方向性などの見取り図を描く、研究ガイド。



Memory, History, and Autobiography in Early Modern Towns in East and West

教授 岩淵 令治 **共編著**

Cambridge Scholars Publishing 2015.8

近世都市における「自己語り」(エゴドキュメント)と社会の関係をイギリス・日本・フランス・イタリアで比較検討。同書の内容をもとに『自己語りと記憶の比較都市史』(勉誠出版、2015年11月)も刊行。



はじめて受けるTOEFL® テスト パーフェクト英単語

准教授 萱 忠義 **著**

桐原書店 2015.9

頻度の高い単語を効率よく効果的に学習できるようにした TOEFL®テスト用の英単語集。200万語以上のデータベースから、コーパス言語学的手法を用いて出題頻度の高い単語を厳選。SpeakingとWritingに活用できる別冊表現文例集も付属。



諏訪信仰の中世

—神話・伝承・歴史—

教授 徳田 和夫 **共編著**

三弥井書店 2015.9

古代に始まって現代においても信仰聖地である長野県の諏訪大社の中世像を、宗教史、民俗学、説話・伝承学から論じる。徳田は企画・編集に加えて「七不思議の中世伝承—巻説、そして諏訪と天王寺—」を執筆。



図書館見学対応における 学生ボランティアの活躍について

オープンキャンパス開催時は大学の図書館を知っていただける絶好の機会なので、多くの方、特に受験生に館内の施設や蔵書を見学していただきたいのですが、ほとんどの方は入館口周辺または参考図書室周辺のみを見てお帰りになります。そこで昨年度から、館内フロアマップ(オリエンターリングシート)に記載された簡単なクイズに答えながら館内を見学することにより、本学図書館の機能や特徴を理解できる「図書館オリエンターリング」を実施したところ、多くの受験生が参加し、本学図書館への理解を深めていただくことができました。そこで今回は「図書館オリエンターリング」の運営に協力してくれた学生ボランティアの活躍について紹介したいと思います。



■入退館ゲートにおける対応

見学のため来館された方は一日入館券を利用して、駅の改札口のような入退館ゲートを開閉することができます。初めて利用する入館券なので使い勝手が分からず戸惑う方もいらっしゃいましたが、そのようなときは学生ボランティアが入退館のサポートをしてくれました。学生ボランティアは来館者の緊張をほぐすよう笑顔での挨拶を心掛け、ご来館いただいた方々に好印象を持っていただくことができました。また退館に手間取る方がいた場合はすぐに対応できるようゲート付近の来館者には特に配慮し、スムーズな入退館の実践に協力してくれました。

■オリエンターリングへの参加を勧める

通常の施設見学は説明を聞くのみで受け身であることが多いのですが、本学の「図書館オリエンターリング」は来館者が自らクイズに答えながら館内を歩くことのできる参加型の施設見学です。学生ボランティアはオリエンターリングの対象である受験生に対して参加を促してくれました。初めはどのように声を掛けようか迷うこともあったのですが、来館者との対応を重ねることにより、積極的に声をかけることができるようになったとのことです。時間的余裕がなく参加を躊躇する受験生に対しては、くどくならないように要領良く参加を勧めるなど、受験生の様子によって対応を工夫してくれたおかげで、多くの受験生が図書館オリエンターリングに参加してくれました。



■図書館オリジナルグッズのプレゼント

「図書館オリエンターリング」に参加されクイズの回答用紙を提出いただいた受験生には、ブックカバー等の記念品をプレゼントしました。プレゼントの際、学生ボランティアが図書館見学の感想を尋ねると、受験生からは大学生活への質問が出され、和やかな雰囲気との交流となりました。学生ボランティアの行き届いた対応により、オリエンターリングに参加された受験生から好評を博しました。また学生ボランティアも、「多くの来場者と触れ合うことができとても幸せな時間だった」、「受験生と接し自身の初心を思い返す良い機会になった」など、今回のボランティアが貴重な経験になったとの意見を多く聞くことができました。

■図書館における学生ボランティア

今回協力してくれた学生に対し、図書館において今後どのようなボランティア活動を体験してみたいのかを尋ねました。学生からは「高校生や新入生に対する図書館利用の案内(学生はどのような時に図書館を利用するのか)」、「これから卒論を書く学生に対する図書館活用方法の案内」、「図書館の利用方法について相談を受けてみたい」、「高校生に向けてお薦め本や映画を紹介するペーパーを作ってみたい」、「新入生に対して、在学生が読んでよかった、または大学生活を充実させるうえでのヒントとなった本を紹介したい」、「本を紹介するブックトークの面白さを広げてみたい」、などの貴重な意見が寄せられました。図書館としても学生協働の観点から、学生によるボランティア活動を今後も積極的に展開したいと思います。

留学制度について

本学在学中に留学するには、以下の4つの方法があります。

1. 協定留学: 学内選考を経て、協定大学に留学すること。
2. 私費留学: 学士の学位授与権のある大学または当該大学に直結する附置機関に、事前に本学の許可を受けた上で留学すること。(留学先は自分自身で選択。プログラムの内容によっては留学と認められない場合もあります。)
3. ダブルディグリー留学: 海外の大学に留学、それぞれの大学で修得した単位の一部を両大学が相互に単位認定することで、両大学の学位を取得すること。(本学は、平成28年5月にカナダのレスブリッジ大学との間でダブルディグリー協定を締結する予定です。)
4. その他: 本学を休学して、海外の語学学校・専門学校などへの留学。(夏休みなどの長期休暇を利用して留学する場合には休学する必要はありません。)

区分	留学期間	単位認定	学費	留学手続
協定留学	原則2学期(1年間) / 在籍年数に算入	認定可	本学学費全額納入・協定校学費免除	国際交流推進センターと共同で行う
私費留学	原則2学期(1年間) / 在籍年数に算入	認定可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	本人が行う
ダブルディグリー留学	2年次秋学期から留学する場合は、原則として5学期(2年6ヶ月)、3年次秋学期から留学する場合は、原則として4学期(2年間)	認定可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	教務部と国際交流推進センターが共同で行う
その他	休学期間は在籍年数に算入されない	認定不可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	本人が行う

協定留学について

1. 協定留学とは

本学では、現在14の国・地域の18校の大学と交換留学協定を締結しています。この18校の協定大学へ、学内の選考を経た上、本学より推薦を受けて派遣されることを協定留学と言います。

2. 学生交換プログラムのある協定大学一覧(平成27年12月現在)

国・地域	大学名	所在地	相互交換数 ^{※1}	語学力 ^{※2※3}
アメリカ	ミズウリ南部州立大学	ジョプリン/ミズウリ	受入 6 / 派遣 5	IELTS 6.0 (Overall) 程度 セクション毎のスコア: L6.0 R6.0 W6.0 S6.0 程度またはTOEFL iBT 80点程度
カナダ	ノーザンプリティッシュ・コロンビア大学	プリンスジョージ/ プリティッシュコロンビア	受入 0 / 派遣 2	IELTS 6.0 (Overall) 程度 セクション毎のスコア: L6.0 R6.0 W6.0 S6.0 程度またはTOEFL iBT 80点程度
	レスブリッジ大学	レスブリッジ	受入 0 / 派遣 5	IELTS 6.0 (Overall) 程度 セクション毎のスコア: L6.0 R6.0 W6.0 S6.0 程度またはTOEFL iBT 80点程度
イギリス	リーズ大学	リーズ	受入 42 / 派遣 32	IELTS 6.0 (Overall) 以上 セクション毎のスコア: R5.5 L5.5 S5.5 W5.5以上
ドイツ	ハンブルク大学	ハンブルク	受入 40 / 派遣 10	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル程度 またはドイツ語検定試験3級以上
	ミュンヘン大学	ミュンヘン	受入 20 / 派遣 19	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル程度
エストニア	タリン大学	タリン	受入 20 / 派遣 14	IELTS 4.5 (Overall) 以上または TOEFL iBT 50点以上 ^{※4}
ポーランド	ワルシャワ大学	ワルシャワ	受入 30 / 派遣 33	IELTS 4.5 (Overall) 程度または TOEFL iBT 50点程度
チェコ	バラツキー大学	オロモウツ	受入 46 / 派遣 19	IELTS 4.5 (Overall) 程度または TOEFL iBT 50点程度
ルーマニア	ブカレスト大学	ブカレスト	受入 25 / 派遣 10	IELTS 4.5 (Overall) 程度または TOEFL iBT 50点程度
中国	清華大学	北京	受入 4 / 派遣 2	HSK4級以上
台湾	高雄大学	高雄	受入 0 / 派遣 0	HSK3級程度
	静宜大学	台中	受入 3 / 派遣 0	HSK3級程度
韓国	誠信女子大学	ソウル	受入 24 / 派遣 11	一般韓国語能力試験 (S-TOPIK) 中級程度または ハングル能力検定試験4級程度
	梨花女子大学	ソウル	受入 0 / 派遣 4	一般韓国語能力試験 (S-TOPIK) 中級程度または ハングル能力検定試験3級程度
ラオス	ラオス国立大学	ビエンチャン	受入 5 / 派遣 0	TOEFL iBT 57点以上または 同等レベルの英語能力
フィリピン	パーベチュアル・ヘルプ大学	ラスピニヤス/ マニラ近郊	受入 0 / 派遣 0	IELTS 4.5 (Overall) 程度または TOEFL iBT 50点程度
オーストラリア	メルボルン大学	メルボルン/ ヴィクトリア	受入 8 / 派遣 5	TOEFL iBT 79点以上 セクション毎のスコア: R13 L13 S18 W21以上

※1 相互交換数は協定締結日から平成27年12月現在の累積となります。

※2 語学力の目安は平成27年12月現在のものであり、協定校側から変更通知がある場合があります。

※3 L=Listening, R=Reading, S=Speaking ※4 特定の学部(Communication, Languages, Informatics, Law)を除く

国籍別留学生 受人数

Dec 1, 2015

国籍	国籍別総数
中国	24
韓国	9
台湾	3
香港	3
マレーシア	1
ドイツ	4
イギリス	2
チェコ	2
ポーランド	2
ベトナム	2
インドネシア	1
ラオス	1
エストニア	1
ルーマニア	2
アメリカ	1
合計	58
私費	39
協定	17
国費	2

本学学生 派遣数

Dec 1, 2015

国	人数
アメリカ	5
イギリス	2
オーストラリア	2
カナダ	3
チェコ	2
ドイツ	4
ポーランド	3
韓国	4
合計	25
協定	20
私費	5

JASSOの日本人学生留学状況調査に準じ、平成27年4月1日以降に留学を開始した学生数をカウントしています。

注① 平成27年3月31日以前から継続している留学は含みません。

注② 英コシの半セメスター留学および短期語学研修は含んでいません。

留学説明会について

留学に興味のある方は、留学説明会に出席してください。第1回は5月、第2回は10月に開催を予定しています。日時の詳細は、国際交流推進センター掲示板をご確認ください。

JASSOの外国人留学生在籍状況調査に準じ、「留学」の在留資格を持つ者を対象としています。

行事①

国際交流会 ～七夕の夕べ～

しました。この国際交流会は9月で帰国予定の協定留学生および、9月に卒業する留学生の送別会でもあります。当日は、留学生、日本人学生は勿論のこと、先生方、日頃より留学生がお世話になっている方々、また戸山高校の生徒さんも参加してくれました。

留学生達は思い思いの願いを込めた短冊をつるした笹竹を飾り、日本舞踊を披露したり、日本人学生指揮の下、皆で輪になって盆踊りをしたりと、日本の七夕祭りの行事を楽しみました。

イベントの最後には、留学期間を終えて帰国する学生たちから一人一人あいさつがあります。来日当初とは比べものにならないくらい流ちょうな日本語で留学生生活の思い出を話す彼女たち、今後日本と世界との架け橋となってくれることでしょう。



平成27年7月9日(木)、互敬会館にて「七夕の夕べ」と称して国際交流会を開催



行事②

留學生日帰りバス旅行

～日光東照宮・益子焼き体験～

平成27年10月17日(土)に留学生を連れて、日光東照宮と益子焼きの陶芸体験に行きました。当日は雨が心配されましたが、現地に着くと日が差し込み、青空が見え始めました。

日光東照宮では、行ったその日が秋季祭・渡御祭の当日で、「百物揃千人武者行列」を行っていました。武者の格好をした地元の人たちを間近で見ることができ、留学生もたくさん写真を撮っていました。お昼は近くの食事処で和食をいただきました。さまざまなお国の留学生が共通語を日本語として会話をしている姿がなんだか不思議に感じ、そして微笑ましく思えました。食事もおいしかったです。

全員ほぼ完食。猿の絵が描かれたお煎餅やお饅頭のお土産も楽しそうに選んでいました。

午後は益子焼き体験を行い、留学生一人一人が真剣な表情でオリジナル作品を作っている姿が印象的です。後日、色が塗って焼き上がった作品が届き、留学生も大満足だったようです。日本での思い出土産の一つとなりました。



行事③



チコ留学生



ポーランド留学生



韓国留学生

留学生の話を聞こう!



ドイツ留学生

国際交流推進センターでは、協定留学生として本学で学んでいる学生にプレゼンテーションをしてもらう機会を定期的に設けています。2015年度は韓国、ポーランド、チエコ、ドイツ、ルーマニア、エストニアからの留学生にパワーポイントを使いながら母国の文化や自分の大学についての発表をしてもらいました。

発表する留学生たちにとって、日本語でプレゼンテーションをすることは日本語上達に役立つだけでなく、母国を紹介することで日本人学生に興味をもってもらえるチャンスだと感じているようです。一方、日本人学生にとっては、本学の留学生がどのような文化を持った国から来ているのか、日本のどのような点に興味があるのかなどを知る、良いきっかけになっています。

行事④



学内留学フェアの開催

国際交流推進センターでは、留学に興味のある学生を対象に、学内留学フェアを開催しています。学内留学フェアでは、留学経験者は自らの留学で体験したことを発表します。協定校から来ている留学生は母国や自分の大学についてのプレゼンテーションをします。また、留学経験者、協定留学生、国際交流推進センターの職員による個別相談も行っています。誰でも交流を楽しみながら参加できる雰囲気です。留学に興味のある学生にとって、費用の面や就活に関する不安、語学の勉強方法など気軽に相談できる機会となっています。

留学を身近に感じてもらうよう、国際交流推進センターでは、これからも学生にさまざまな形で留学情報を提供していきたいと思えます。



留学生報告

1

Gakushuin Women's College

協定留学生 (ラオス国立大学)
Souththivong Souksavath
スットティウオン スックサワート



右手前がスックさん

私は学習院女子大学の留学生として日本へ来て、一年間生活をしました。一年という短い期間でしたが、私の人生の中で、とても充実していました。

日本に来る前、日本語と日本文化について勉強をしていましたが、日本に来たことがなかったので、日本の生活になじめるか、少し不安でした。しかし、他の留学生や日本人学生サポーターと一緒に遊んだり、話したり、いろいろな活動をしたので、だんだん慣れて、日本の生活を楽しむことができるようになりました。

日本語力を上達させたので、毎日、日本語を話したり、言葉覚えたりして、頑張っています。また日本語だけではなく、有職故実と書道の授業にも参加して、日本の伝統的な文化を理解できるようになりました。春学期、私は有職故実の授業に参加して、初めて着物の着方を学びました。本当に

嬉しく、また楽しいと感じました。日本にいる間に伝統文化を経験することができて、嬉しかったです。

留学中、いろいろなところへ旅行をしたいと思っていました。金沢、鎌倉、江の島、日光、富士山、神奈川に行けて楽しかったです。なかでも8月に、私は石川県でホームステイを体験し、実際の日本人の生活に触れることができました。ホストファミリーはとても親切で、温かかったです。そして、様々な国から来た人たちと出会い、新しい友達を作ることができました。多くのことを学ぶことができ、良い経験となりました。

学習院女子大学で留学生として学ぶことができ、本当に嬉しかったです。国際交流推進センターの皆さんがいつも助けてくれました。先生とサポーターの皆さんもいろいろなことを教えてくださいました。ありがとうございます。この一年間でできた友達、経験はこれからも絶対に忘れません。





留学生報告

2

Gakushuin Women's College

国際コミュニケーション学科3年 陳 蒙韻

2014年1月に上海から日本へ来て、そろそろ二年が経ちます。この二年間で、いろいろなことを経験して、私はこの大学でいい思い出をたくさん作りました。学習院女子大学の編入試験を受けて三年生として入学することは、一年前の私には、まったく想像できないことでした。でも今の私は、毎日充実した日々を過ごしています。もともと、日本の文化と景色に興味があり、私は日本へ留学することを

決めました。日本に来て一年目は、日本語の勉強と入学試験の準備のため、日本国内の旅行や文化体験をする余裕がありませんでしたが、入学してから、国際交流推進センターのおかげで、バス旅行や歌舞伎鑑賞教室に行くことができて、日本の文化を深く理解し、異文化の面白さを感じました。



右から4番目が陳さん



学習院女子大学は、自分の学科の科目だけでなく、興味がある他の分野の勉強ができるという

特徴があります。そして、留学生の枠を超えて、興味がある科目も選択できます。私は昔から言語を学ぶことが好きで、上海で学生をしていたときは、英語を専攻していました。そして、今は韓国語の授業を受けています。

学期から入った櫻井先生のゼミのおかげで、その不安が小さくなった気がします。ゼミでは、国際法に関する多くの知識を習得しています。櫻井先生には、ゼミでの報告に対する指導と意見をいただいたり、報告のテーマや資料検索の悩みなどの相談に乗っていただいたりしました。櫻井先生やゼミ生たちからの、たくさんの応援とサポートを力に、日本語が上手になるように毎日頑張っています。

韓国語の学習はとても面白いため、時間があれば、これからも韓国語の勉強を続けたいと思います。私は上海で、社会人として働いていた経験があります。そのため、入学する時、自分がもう一度学生生活に戻ることに対して、とても不安でした。私は少し人見知りで、女子校に通ったこともなかったため、一人ぼっちになるかもしれないと思ったからです。しかし、実際の周りの日本人の学生たちが、私のような留学生にも優しく話をしてくれました。そのおかげで友達もできて、今、私は楽しい学生生活を過ごしています。また、編入生として入学するという不安もありました。私の日本語経歴は一年しかなかったため、いきなり三年生として、授業を受け、レポートを書くのはかなり大変でした。けれど、今年の春

二年間の日本での生活を振り返って、もし学習院女子大学に入学していなかったら、私の人生に何か変化はあったらどうかと考えました。私は学習院女子大学に入学することができて、本当によかったと思います。毎日感謝の気持ちをお忘れずに、優秀な卒業生になるためにもっと頑張りたいと思います。



海外留学報告

Gakushuin Women's College

国際コミュニケーション学科4年
剛力 美和



私はオーストラリアのメルボルン大学に留学していました。この大学には科学部、環境学部など多くの学部がありますが、私は人文学部に所属していました。以前から国際交流や移民に関する問題などに興味を持っていたので、異文化交流やオーストラリアの移民の歴史に関する授業などを受講していました。メルボルン大学では、一つの科目ごとにレクチャーと少人数で行われるチュートリアルという授業の二つで構成されています。来て間もないころは英語力が十分でなく、授業についていくことに非常に苦労しました。中でもチュートリアルはディスカッションがメインとなっているものなので、

うまく英語が話せなかった時は議論に参加することがほとんどできず、とても悔しい思いをしました。しかし、数カ月が経ち、英語力に自信が持てるようになって、徐々に議論に参加できるようになったことが分かり、留学生活はより楽しいものになりました。

メルボルン大学の良いところは、世界中からたくさんの留学生が学びに来ているということです。そのため、授業やサークルを通じて、世界中に友達を作ることが出来ます。私はサークルでイラン人やマレーシア人の友人を作り、休日によく一緒に遊びに出かけていました。また、私の住んでいた寮にも、シンガポールやブルネイ、スペインなど多くの異なる国出身の学生が住んでいました。そのため、寮のイベントも各国の文化に関連したものが多く、さまざまな文化について学ぶことができました。日本に関するお祭りが行われたこともあり、日本の国歌を歌ったり、みんなでソーラン節を踊ったりして楽しみました。

私が留学で一番思い出に残っているのは、大学のサークルで学生に日本語を教えたことです。リーダーシップをとったり、英語で日本語を教えたりする



という経験は今までしたことがなかったもので、初めの頃はとても苦戦しました。しかし、経験を積むにつれ非常に慣れていき、最終的には納得のいく授業づくりができ、また新たな経験をすることで自分を成長させることができました。

留学は、多くの新たな経験をし、自分を成長させる良い機会だと思っています。ネイティブスピーカーのように話せるようにはなりませんでしたが、英語をコミュニケーションのツールとして自信を持って使うことができるようにもなりました。留学に興味のある方は、ぜひ挑戦してみるとよいのではないのでしょうか。

はたおり部

Weaving

ごきげんよう。私たちはたおり部は、毎週月曜日から水曜日の週3回と長期休みに、コーチの小栗先生のご指導を受けながら楽しく活動しています。

女子大学内には『鶴の恩返し』に登場するような、腰をかけた姿勢で織れる高機たかばたが4台、卓上型の機織り機が10台あります。すべて学習院女子短期大学時代の機織り機を大切に使用しています。

はたおり部では、通常の活動に加えて雅祭や和祭へも参加しています。6月には文化交流ギャラリーにて、キャンパス内の草木で染めた作品の展示会を行いました。本学卒業の先輩と現部員の交流は新鮮な経験になりました。



「初めてで分からない」など、入部当時は全員初心者でしたが丁寧な指導により、織る面白さをつかむことができるでしょう。機織り機でマフラーを作り、次は何を織ろうかと考えるのは楽しいです。自分で機織りを織りあげることが楽しさにつながるのではないのでしょうか。ご興味を持っていただければ幸いです。部員一同お待ちしております。

(日本文化学科3年 栗原千彰)



ラクロス部

Lacrosse



ごきげんよう。私たちラクロス部は週に5日、目白キャンパスにて学習院大学と合同で活動しています。2016年度のチームでは1部昇格を達成するべく、「邁進まいしん」というスローガンを掲げ、夏に開催される関東学生ラクロスリーグ戦に向けて日々練習を始めています。活動

時間が朝のみとなっているため、アルバイトなどとの両立もでき自分のやりたいことにも挑戦することができます。他大学やOGの方々との交流も多く、大勢の人とつながることができるのもラクロス部の魅力です。また、ラクロスは中学・高校での経験者が少なく、部員のほとんどが大学に入学してから始めた初心者なので他のスポーツと違ってみんな同じスタートラインです。努力した分だけうまくなれるスポーツであり、チームの雰囲気はラクロス部ならではのアットホームさ！先輩後輩関係なくチームで笑い合ひ喜び、悔しいときには共に泣き、そしてまた共に刺激し合いながら本気になれる仲間がいるのがラクロス部です！

皆さんもラクロス部女子の一員となり、最高の仲間たちと最高の4年間を過ごしましょう。北グラウンド(学習院大学)でお待ちしております！



(日本文化学科3年 田島琴)

書道部

Japanese Calligraphy



ごきげんよう。私たち書道部は毎週木曜日に、学習院大学書道部ご出身の頼藍泉先生にご指導いただきながら練習に励んでいます。毎回の練習ではおもに仮名書道とペン習字の月例課題に取り組み、書道の上達を目指しています。また秋ごろには、大学祭で当部が開催する桜墨展に向けて、扇子やお皿に和歌を書いた作品なども製作します。

さらに長期休みには学内で練習会を開いたり、自然あふれる新潟県で合宿を行うなど、書道に向き合う機会がたくさんあります。その成果として、昨年は毎日書道展という全国規模の大会



に、出品した部員全員が入賞もしくは入選を頂くことができました。今年も全員が良い結果を頂けるよう、現在も作品の制作に励んでいるところです。

私をはじめ、初心者も多いですが、皆書道を通じて日本文化に親しむ時間を持っていることを誇りに思いながら活動しています。もちろん黙々と練習するだけではなく、時にはお菓子をつまみながら、学年関係なく皆でおしゃべりを楽しむ、とても朗らかな部活です。少しでも書道に興味を持たれた方はぜひ一度、書道部へお越しください。部員一同、心よりお待ちしております。

(日本文化学科2年 下橋 利奈子)

雅祭
Miyabi Festival

雅祭とは、毎年

4月に行われる新入生歓迎会のことです。本学の委員会、公認団体クラブの紹介や新入生同士の交流の場となるような企画を行い、新入生の皆さんが本学でのこれからの学生生活にわくわくできるような場所を提供しています。

新入生の皆さんにより一層楽しんでいただけるよう昨年度の反省を生かし、運営方法・企画・装飾・広



雅祭を終えて

2015年度 雅祭実行委員長
(国際コミュニケーション学科3年)

小川 真実

報に至るまですべての見直しを行いました。

雅祭を作り上げていく中で、私たちが最も大事にしていたことは「私たち自身が楽しんで雅祭をつくりあげること」

です。新入生の皆さんの笑顔が見たい一心で、委員全員がアイデアを出し本気で語り合い、より新入生の皆さんがわくわくする方法を模索していきましました。

雅祭当日、私たちの思いがいっぱい詰まったやわらぎホールや互敬会館が、新入生の皆さんの輝いた表情でいっぱいになった光景は今でもはつきりと記憶に残っています。参加していただいた新入生の皆さんをはじめ、本学の課外活動団体に所属している皆さん、何度もお相談させていただいた学生部の方々、雅祭をともに作り上げてきた委員の仲間から感謝申し上げます。

和祭

Yawaragi Festival



「和祭」を振り返って

今年度、学習院女子大学の大学祭「和祭」は10月10日、11日に行われました。不安定な天候にもかかわらず、多くの方々に来場していただきました。ありがとうございます。

今年度の和祭は「RING」それぞれの想いを輝かせて」というテーマを掲げました。このテーマには来場者の皆さまと本学学生が和祭を通して一つの大きなRING(輪)を創りたい、Ringは鐘が響くという意味を持っていることから学内最大のイベントである和祭という鐘の音を響かせ、本大学をより多くの方々に知ってもらえるきっかけになる大学祭にしたいという願いを込め、活動してまいりました。委員長という立場に立たせていただき、当日はそれぞれが準備を進めてきたものが大きな力として発揮されていた場面を見届けるこ

とができ、それを受け取ってくださる来場者の皆さまの笑顔を見ることができ、大変うれしく思いました。



私は大学祭実行委員会に1年生のときに入会し、大切な仲間と出会ったことで楽しく活動を続け、さまざまな経験を積んできました。そして、今年度の和祭は私にとって3年目の集大成として先輩方から引き継いだ想いを大切にしながらも成長し続ける和祭になるよう運営に努めてまいりました。今年度は主に全体のスケジュールの調整、大学祭当日の環境改善、そして意識の共有を図るため定例会の内容の改善を主に行いました。このような活動の中で部署の隔たりを越えた委員同士の交流がより良い組織作りにつながり、またその結果「全ての方々の心に響く大学祭

の参加団体の皆さま、他大学の参加団体の皆さまにも改めて御礼申し上げます。そして最後になりましたが、4月から大学祭のために多くの時間をかけてアドバイスをくださり、当日もご尽力くださいました学生部の皆さま、毎回の打ち合わせにおいて貴重なご意見をくださいました教職員の皆さま、また協賛企業の皆さま、OGの先輩方、ご父母の皆さま、今年度も無事に和祭を終えられたことは皆さまのご支援とご指導の賜物と深く感謝しております。本当にありがとうございました。



にしたい」という目標が実現できたことにもつながったと感じております。そして些細なことではありましたが、このような改善に賛成し、共に和祭を創り上げた各部署の長、委員たちに大変感謝しております。また和祭を盛り上げるために参加していただきました学習院女子大学

2015年度

大学祭実行委員長(日本文化学科3年)

清末 菜津子

●就職支援スケジュール(平成27年度実績)

開催月	セミナー内容
4月	●就職対策セミナー「公務員セミナー」 ●4年生対象 学内企業説明会
5月	●就職講演会「26年度就職活動報告と27年度就職活動スケジュールについて」 ●2年生対象「キャリアデザインブックの活用」 ●就職対策セミナー「適性・適職テスト」 ●4年生対象 学内企業説明会
6月	●就職対策セミナー「インターンシップ説明会」 ●就職対策セミナー「筆記試験対策講座」 ●就職対策セミナー「志望企業の探し方」 ●就職対策セミナー「適性・適職テスト結果ガイダンス 「自分と仕事の発見ー自己分析講座」 ●就職対策セミナー「写真撮影・メイクアドバイス講座 (アナウンサー等マスコミ対策)」 ●外務省職員による講演会「国際機関での働き方について」 ●4年生対象 学内企業説明会
7月	●4年生対象 学内模擬面接会
9月	●就職対策セミナー「アナウンサー試験対策講座」 ●就職対策セミナー「外国人留学生の就職活動について」 ●1年生・2年生向け「キャリアマップ検査」 ●4年生対象 学内企業説明会
10月	●就職対策セミナー「業界・企業研究の方法ーいい会社・悪い会社の見分け方」 ●公務員試験対策 相談会 ●就職対策セミナー「新聞の読み方と業界選びの考え方」 ●就職対策セミナー「就職模擬試験(SPI試験・GAB/CAB試験)」 ●ビデオ上映会「SPI試験対策講座」 ●就職対策セミナー「メイク・就職写真アドバイス講座」 ①ファッション・メイクヘア編 ●就職対策セミナー「メイク・就職写真アドバイス講座」 ②総論・就活写真編 ●1年生・2年生向け「キャリアマップ結果ガイダンス」
11月	●就職対策セミナー「面接時のマナー講座 (個人面接・グループディスカッション・集団面接対策)」 ●内定者報告会 ●業界研究セミナー①商社(金属) ②金融業界(信託銀行) ●秋冬インターンシップガイダンス ●就職対策セミナー「筆記試験対策講座」 ●就職対策セミナー「航空業界志望者対象ES等対策講座」 ●就職対策セミナー「エントリーシート・履歴書作成のポイント講座」
12月	●業界研究セミナー①金融業界(損害保険) ②航空業界 ●就職対策セミナー「外資系航空会社セミナー」 ●就職対策セミナー「写真撮影・メイクアドバイス講座(職種別対策)」 ●業界研究セミナー①金融業界(銀行) ②サービス業界(ホテル) ●業界研究セミナー①物流業界 ②旅行業界 ●面接対策セミナー(2日間)
1月	●ハローワーク主催 4年生対象 求人票紹介・就職相談会 ●就職対策セミナー「面接時に役立つ時事キーワード講座」
2月	●就職対策セミナー「ES書き方講座」 ●業界研究セミナー ●就職対策セミナー「OGによるパネルディスカッション」 ●就職対策セミナー「グループディスカッション対策講座」 ●就職対策セミナー「事務適性検査対策講座」
3月	●学内企業説明会

キャリア支援部のサポート体制

大学のキャリア教育・就職対策セミナーは、全学的に授業がない木曜日5時限目やお休みの時間帯に開催し、学生の負担にならない時間帯や参加しやすい環境を整え、学業と就職活動の両立を図れるようになっています。多くのセミナーは1年生から参加できますので、積極的に参加して、早期から自身のキャリアプランについて考えてみましょう。

例年、金融業界を中心に高い就職率を維持しています。また、国際系学部の強みを生かし、グローバル企業や運輸業界への就職実績が高いことも特徴です。小規模校のため、各企業への就職者数では、大規模総合大学の陰に隠れてしまっていますが、実就職率ランキングでは、本学が健闘していることがうかがえます。



速報!

大学別著名400社への実就職率で、全国大学12位、全国女子大1位となりました。

2015年大学別著名400社への

実就職率
全国女子大

1位

2015年 大学別著名400社への
実就職率(大学通信調べ)

1 一橋大	57.9%
2 東京工業大*	53.9%
3 豊田工業大*	50.5%
4 慶應義塾大*	46.4%
5 国際教養大	44.4%
6 電気通信大*	37.4%
7 早稲田大*	36.1%
8 大阪大*	35.5%
9 東京外国語大	35.4%
10 九州工業大*	32.7%
11 上智大*	32.6%
12 学習院女子大	32.2%
13 名古屋大*	32.0%
14 東京理科大*	31.8%
15 京都大*	31.8%
16 名古屋工業大*	31.4%
17 国際基督教大	30.3%
18 東京女子大	29.8%
19 学習院大	29.7%
20 聖心女子大	29.2%

実就職率(%)は、就職者数÷(卒業(修了)者数-大学院進学者数)×100で算出。*印は大学院修了者を含むことを表示。

2015年
銀行に強い
大学ランキング

全国 1位

「2015年 銀行に強い大学ランキング」
(大学通信調べ)

2015年
グローバル企業
就職率ランキング

全国 1位

「2015年グローバル企業就職率ランキング」
(週刊ダイヤモンド 2015年11月7日号にて掲載)

2015年大学別著名400社
業種別実就職率
運輸編(航空業界含む)

全国 2位

2015年 大学別著名400社 業種別実就職率
(運輸編(19社:航空業界含む))(大学通信調べ)

アナウンサー試験対策講座

アナウンサー職に興味のある学生向けの、少人数制セミナーです。講師には学習院女子短期大学のOG(元テレビ朝日アナウンサーで現在はフリーアナウンサー・講師)をお招きし、マスコミ業界の概要から採用試験の流れ、自己紹介のコツなどをご指導いただけます。このセミナーへの参加がきっかけで、アナウンサー職に内定したOGも複数います。さまざまな業界で活躍するOGの手厚いサポートが受けられることも、本学の就職力につながっています。

<平成27年度 業界研究セミナー・企業説明会 主な参加企業>

あいおいニッセイ同和損害保険、小野薬品工業、共同印刷、近鉄エクスプレス、警視庁、国際協力銀行、JTBグループ、JALスカイ、新日鐵住金、新日鐵住金エンジニアリング、住商グローバル・ロジスティクス、住商スチール、住友商事、セルリアンタワー東急ホテル、全日本空輸、高見、日本航空、日本政策投資銀行、日本生命保険、日本マスタートラスト信託銀行、野村證券、マイナビ、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三越伊勢丹、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、りそな銀行 他(五十音順)



三菱商事(株)

平成28年3月 国際コミュニケーション学科 卒業
渡瀬 マヤ

就職活動の感想は「楽しかった」の一言です。勉強をして努力をすれば必ず結果のでるSPIのテストや、自らの足を運んで社員の声を聞くOB・OG訪問はとても新鮮であったし、全て自分が動かなければ何も変わらないという状況がとても楽しかったです。しなければならぬ努力の量はひとそれぞれ違うと気がついた時、周りを気にせず、自分のやるべきことを貫き通して、これだけやったら結果がどうであれ満足だというところまで、後悔のないように行動することを常に心がけるようになりました。また、就職活動では様々な方の応援や支えから、人と人の信頼関係の構築の重要性を、身を持って感じることができました。中でも、キャリア支援部の職員の方には何度もなんども忙しい中、親身になってESの添削や面接のアドバイスをしていただき、非常に安心して面接に望むことができました。また、その安心と同時に必ず内定をとって恩返しをしたいというやる気ができました。学習院女子大学に入学して本当によかった、そう思える出会いでした。面接では、様々な方とお話しをする機会があり、たくさんの素晴らしい経験をすることができました。就職活動を通しての様々な方との出会いや経験は私の財産です。



三菱UFJ モルガン・スタンレー証券(株) 内定

平成27年9月 日本文化学科卒業
齋藤 優美

就職活動は選考がうまくいかずつらいときもありましたが、周りの方に支えられて乗り越えることができました。

私はそもそもなぜ働くのかというところから自己分析を始め、そのために「何が必要」で「どのように働きたいか」という点を軸に就職活動をしていました。

いざ8月になり選考が本格的に始まるころ、面接がうまくいわずに気持ちが落ちてしまうこともありました。振り返ってみると、企業の求める人物像に合わせようと取り繕っている自分がいることに気がつきました。そこからは「自分らしく」面接に臨むようになり、今の内定先と出会いました。

その際、家族、友人、キャリア支援部の方、OB・OGには本当に支えていただきました。特にキャリア支援部には何度も足を運び、アドバイスをしていただくことで自信を持って選考に臨むことができました。支えてくださった方には、心から感謝の気持ちでいっぱいです。多くの方の支えがあって就職戦線を乗り越えることができたこと改めて感じています。

皆さんもつらいときはひとりで抱え込まず、周りの方の力を借りながら、「自分らしく」頑張ってください。納得のいく就職活動になりますよう応援しています!



東海旅客鉄道(株) 内定

平成28年3月 英語コミュニケーション学科 卒業
金子 祥子

「社会貢献」に焦点を当て、業界研究やインターンを経験する中で、人々の生活の基盤であるインフラ関係に携わりたいと考えました。

職種選択では、1つの業務に長期的に携わり、チームを根底から支えたい、環境の変化に左右されず働き続けたい、と考え、エリアが限定されたオフィスでの働き方を選択しました。

ES、試験、面接の過程において、行き詰まる前に周囲に相談するよう心掛けました。キャリア支援部の方々にはESの添削や面接の練習、家族や友人とは悩みを共有することで、就職活動の軸を再確認することができました。特に、OB・OGを始め、社会で活躍されている方々の声は非常に参考になりました。

加えて、新聞を読むことは、社会の動向を把握するために大変役立ちました。ものづくりひとつとっても、関連企業を知ることで、興味の幅が広がります。同時に、社会の課題に対して、自分の考えを持つことが習慣となりました。

就職活動は、運に左右される部分も大きいと思いますが、「素直に。前向きに。」を忘れずに頑張ってください。皆さんが、輝くことができる企業に就職できるよう、応援しています。



日本航空(株) 内定

平成28年3月 日本文化学科 卒業
山藤 あやめ

皆様は「自分と向き合う」とはどういう事だと思われますか。振り返ると私にとっての就職活動はこの答えを導く事だったように思います。

小さい頃からの夢、そして漠然とした憧れ。それが目の前の目標となり挑んで行く時、立ちほだかる現実の壁の高さに不安になりました。上手く話そうということに気が取られてしまう時期もありました。そんな中、日本航空の採用チームの方々には熱意と優しさを持って常に接してくださいました。形式ばかりではない温かい思いに触れ、自分に何ができるのか、何を遂げたくてこの仕事を選ぶのかを改めて考え、「自分の言葉で伝えたい」と強く思うようになりました。

また学校の就職セミナーでは様々な企業が来校され、温度の伝わる距離で沢山のお話を伺うことができました。業種を問わず全てのセミナーに参加する事は視野や思考の幅を広げる貴重な機会となりました。

多くの方々のお力添えや家族の応援あつての今日に感謝し、今後も精進いたします。後輩の皆様、来たる時期内定を手にした皆様は就職活動に果敢に立ち向かったご自身に「ありがとう」と伝えたくなると思います。笑顔のご自分を想像し頑張ってください。

キャリア支援部からのお知らせ

平成27(2015)年 3月卒の就職状況について

平成27年3月卒の就職状況は、企業の積極的な採用姿勢により、昨年の97.8%に匹敵する97.6%という高い就職率になりました。平成28年3月卒からの採用スケジュール変更(3年生の3月に広報開始・8月選考開始・10月1日以内定)により、企業は短期間での選考を強いられ、内定者確保に苦戦することが予想されました。このため、平成27年3月卒の採用数を増加させる傾向にあり、その結果、複数の企業から内定を得る学生も増加し、辞退者も続出したため追加募集を行う企業が例年以上に多く、後期に入っても大手企業から急ぎよ求人者をいただくような状況でした。こうした求人者と学生を結びつけるべく、本学も就職活動を継続している学生に対し積極的に求人者を紹介するなどした結果、卒業直前の2月・3月に内定を獲得する学生も複数おりました。

就職先上位10社は、昨年同様金融業界と航空業界が占めました。特に上位3社を占めるメガバンクは、昨年を上回る内定数となり、銀行の積極的な採用姿勢を裏付ける結果となりました。

平成28(2016)年 3月卒の内定状況について

採用スケジュール変更の初年度となったこの年は、学生・企業ともに手探りの活動を余儀なくされました。3月の広報解禁はほぼ守られたものの、8月開始とされていた選考は、特に経団連に所属していない企業や中小企業では4月以降盛んに行われたため、学生の多くは実質3月から8月まで休むことなく

活動せざるを得ない状況で、いわゆる「就職活動の長期化」となりました。そのような中、景況感さらには高まり、複数内定獲得者が増加、企業への返答に戸惑う学生がキャリア支援部の窓口を訪れました。同時に、秋以降も大手企業から追加募集のご案内をいただき、特に留学から帰ってきた学生にとっては例年よりも有利な状況だったと言えます。

内定状況としては、4月中旬に内定を獲得する学生が多かった昨年に比べ、今年5月以降徐々に増えていき、10月時点の内定率は昨年とほぼ同水準でした。

平成29(2017)年 3月卒の就職活動について

今年度変更されたばかりの採用スケジュールですが、すでにマスクミなどで発表されているとおり、面接などの採用選考の解禁日を、現行の8月から2カ月前倒しして、来年度は6月に変更する方針が示されました。広報は今年度同様の3月開始であるため、企業が採用広報にかけられる期間は今年度より2カ月短い3カ月となります。広報活動の短期化をカバーするため、広報活動とは別に企業の認知度向上につながる機会として、インターシップの重要性が高まっています。

この状況を受け、本学では今年度新たにインターシップのガイダンスを11月に実施しました。また、2月の業界研究セミナーの企業数を増やしたり、新たにグループディスカッション講座を実施するなど、スケジュールの短期化に備えています。3月以降スムーズに就職活動を開始するには、早期の事前準備が不可欠です。学生の皆さんは学内で行われるセミナーや企業説明会に積極的に参加してください。

【平成26年度 主要産業別就職状況】

産業	企業名(カッコ内は人数、1名は省略)	人数	%
金融・保険業	三菱東京UFJ銀行(22)、みずほフィナンシャルグループ(15)、日本生命保険(10)、三井住友銀行(10)、千葉銀行(5)、野村證券(5)、あいおいニッセイ同和損害保険(4)、住友生命保険(4)、京葉銀行(3)、常陽銀行(2)第一生命保険(2)、千葉興業銀行(2)、日本マスタートラスト信託銀行(2)、富国生命保険(2)、三菱UFJニコス(2)、損害保険ジャパン日本興産(2)、みずほビジネスサービス(2)、明治安田生命保険(2)、SMBC信用保証、SMBC日興証券、資産管理サービス信託銀行、信金中央金庫、大和証券グループ本社、東京スター銀行、東京東信用金庫、日本政策投資銀行、みずほ証券、三井住友海上火災保険、三井ダレック損害保険、ユーシーカード、横浜信用金庫、横浜銀行、りそな銀行等	128	35.3%
卸売・小売業	三越伊勢丹ホールディングス(3)、伊東屋(2)、三菱マテリアルトレーディング(2)、ジューン(2)、日本鐵板(2)、ビームス(2)、イーグルリテイリング、NAAリテイリング、エフティシィフレンズ、花王カスタマーマーケティング、住商エアロシステム、住友商事、双日エアロスペース、サマンサタバサジャパンリミテッド、日鉄住金物産、丸紅建材、資生堂販売、しまむら、東急ハンズ、新潟三越伊勢丹、ポイント、米国三越等	61	16.8%
サービス業	エイチ・アイ・エス(3)、郵船コーポラルサービス(3)、DACグループ(2)、JTB首都圏(2)、SMBC融資事務サービス(2)、ANAセールス、エスクワクラブ、ラフリーズム、ジェイアール東海ツアーズ、裏千家今日庵、ANAスカピルサービス、コナミデジタルエンタテインメント、桜丘法律事務所、第一中央法律事務所、高見、鶴岡八幡宮、テイクアンドグヴ・ニュース、東京コンサルティンググループ、東京大神宮、三井物産フィナンシャルマネジメント、三菱地所プロパティマネジメント、リクルートスタッフィング、ヤマシシステム開発等	46	12.7%
運輸業・郵便業	全日本空輸(6)、日本航空(5)、JALスカイ(3)、日本郵便(3)、アジアナスタップサービス、ANAウイングス、岩瀬運輸機工、スカイマーク、大韓航空、チャイナエアライン、日輪、日本自動車ターミナル、ヤマト運輸、郵船ロジスティクス、アネックス	28	7.7%
情報通信業	ジェイズ・コミュニケーション(2)、ネットワークバリューコンポネツ(2)、クリアーズ、ソフトバンク、三和コムテック、ドワンゴ、日本アイ・ビー・エム、日本アイ・ビー・エムテクニカルソリューション、東日本電信電話、富士ソフト、富士通マーケティング、丸紅情報システムズ、PLAN-B等	25	6.9%
製造業	エスピー食品、ユーハイム、ワコールホールディングス、アルピオン、武田薬品工業、クリナップ、ちふれ化粧品、富士フイルムRFファーマ、ライオン、三菱伸銅、住友大阪セメント、三菱電機、JNC等	20	5.5%
教育・学習支援業	学習院(5)、茨城県教育委員会、千葉県教育委員会、さいたま市教育委員会、うすい学園、栄光、三幸グループ、栄学園、修徳学園等	15	4.1%
宿泊業・飲食サービス業	パルスホテル(2)、ジェイアール東日本フードビジネス、スターバックスコヒーヤパン、セルリアンタワー東急ホテル、日本ビューホテル、日本ホテル、星野リゾート、森ビルホスピタリティソリューション等	13	3.6%
不動産業・物品賃貸業	三井不動産リアルティ(2)、エイブル、東急リアル、東京建物不動産販売、野村不動産パートナーズ、ミサフホーム、三井住友トラスト不動産等	9	2.5%
医療・福祉	IMSグループ(2)、公益財団法人がん研究会、医療法人社団筑波記念会、ベネッセスタイルケア、ホピズ等	7	1.9%
建設業	新日本建設(2)、新日鉄住金エンジニアリング、大和ハウス工業	4	1.1%
複合サービス業	埼玉県信用農業協同組合連合会、全日本海員組合、富士市農業協同組合	3	0.8%
公務	千葉県警察本部、東京23区特別区人事委員会、西東京市役所	3	0.8%
電気・ガス・水道	アストモスエネルギー	1	0.3%
合計		363	100%

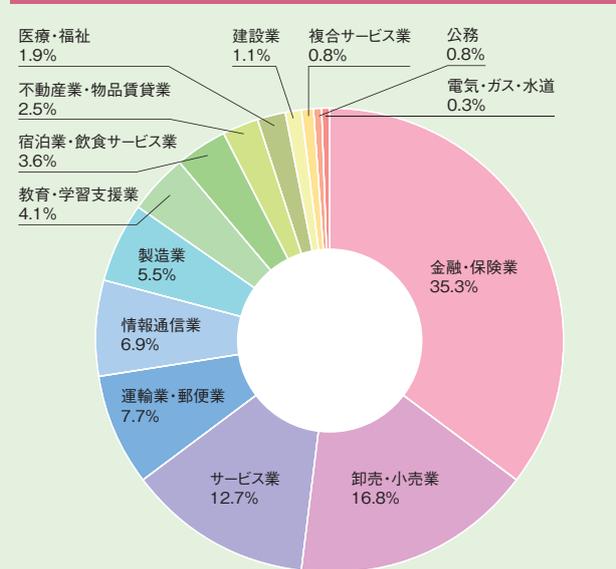
【就職先上位10社】

企業・団体名	人数
1 (株)三菱東京UFJ銀行	22
2 (株)みずほフィナンシャルグループ	15
3 (株)三井住友銀行	10
4 日本生命保険(相)	10
5 全日本空輸(株)	6
6 (株)千葉銀行	5
7 野村證券(株)	5
8 日本航空(株)	5
9 住友生命保険(相)	4
10 あいおいニッセイ同和損害保険(株)	4

平成26年度 (2014年度) 就職状況 (2014年9月・ 2015年3月卒業生)	
卒業決定者	417
就職希望者	372
就職希望率	89.2%
就職内定者	363
就職内定率	97.6%

平成27年3月31日現在

平成26年度 学習院女子大学業種別就職状況 —主な企業—



学習院父母会の近況報告



学習院女子大学父母会会員の皆様へ

学習院父母会会長 小堀 正晴

ご父母の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。

学習院父母会は、学習院全体の経営、教育に参画し支援する組織であり、その目的に従ってさまざまな活動をしています。これは他の学校法人には見られない特徴です。本会は、園児、児童、生徒、学生が学習院において充実した学校生活を送れるように多岐にわたって支援することを第一の役割であると考えております。それは、学習院で学ぶ子ども達が社会人となり、明日の日本、世界の二翼を担う人材として成長することを願っているからです。

本会は皆様から頂戴する年会費で運営されており、皆様とともに、ご子女のご成長、ご活躍をお祈り申し上げます。

学習院父母会事務局より

学習院女子大学のご父母（保証人）の皆様は常日頃より、本院の学校運営にご理解と多大なるご協力をいただきました。平成27年度の学習院父母会の運営も滞ることなく進んでおります。

学習院父母会の事業運営報告等につきまして Yawaragi 学習院女子大学だよりに掲載いたします。ご感想を感謝いたしております。

父母会の主要事業

(1) 父母会奨学金制度（平成13年度創設）

学習院に在学する学生、生徒等で父母保証人の死亡などに起因し、家計が激変したことから、学費の支弁が困難と認められる勉学熱心な者に対し、選考のうえ、年15名以内、

年額授業料・維持費（高等科以下の名称）・施設設備費（大学及び女子大学の名称）相当額（100万円限度）を学習院在学中1年度に限り給付するものです。平成27年度は4名（大学3名、初等科1名）の学生、生徒等へ給付いたしました。

(2) 父母会課外活動等助成金制度（平成13年度創設）

現代は単に学問だけでなく、スポーツ・文化などを含めた広く大きな「人格形成」が教育の場に求められています。そこで父母会は、大学、女子大学、男女中・高等科及び初等科の運動部・文化部等の課外活動に対し積極的に助成しております。

- ・各部・各クラブの備品用具等へ助成する一般助成金について、平成27年度は各学校合計77件でした。
- ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成26年度は各校合わせまして、優秀賞は団体9件、個人26件、奨励賞は団体1件、個人9件でした。

父母会の近況報告

(1) 地方における「地震災害による被災者父母保証人」への見舞い等

新潟県中越地震（平成16年）、福岡県西方沖地震（平成17年）、新潟県中越沖地震（平成19年）、岩手・宮城内陸地震（平成20年）、それぞれ、お見舞金を贈呈しました。

平成23年3月11日、東北関東地域に発生した甚大な災害に当たって「学習院東日本大震災義援金」へ100万円を募金しました。

また、東日本大震災罹災学生（大学及び女子大学に申請・認定の学生）に対して生活支援金（平成23年度の時限措置）を支給しました。

(2) 「オール学習院の集い」への協力

恒例の「オール学習院の集い」に対して、法

人へ寄付をするとともに、常任幹事の方々に当日の運営にご協力いただき、「共催」の役目を務めております。

(3) 大型物件の寄贈及び寄付

百周年記念会館小講堂の椅子の老朽化に伴い200脚寄贈（平成20年）

- ・学習院女子大学へグランドピアノ（スタインウェイC227）の寄贈（平成21年）
- ・幼稚園へAED及び保健室へAED訓練用入形の寄贈（平成21年）
- ・学習院女子中・高等科テニス・バレーコート人工芝化改修工事費の寄付（平成22年）
- ・校外施設（沼津游泳場・妙高高原）地デジ対応テレビ等買い替えの寄付（平成22年）
- ・幼稚園へステンレス製オリジナル2連登り棒を寄贈（平成23年）
- ・各学校（大学・幼稚園）へ災害時整備計画に基づく備蓄品等を寄贈（平成24年）（女子大 学用備蓄品として、アルファ米2,100食及びサバイバルパン2,016缶を寄贈）
- ・学習院大学へ西5号館1階「学生ホール」内設置の椅子188席を寄贈（平成26年）
- ・学習院大学へ輔仁会館前噴水広場用屋外チェア16脚を寄贈（平成27年）

おわりに

以上のように学習院父母会は直接あるいは間接に学習院の経営、教育に参画、支援をしている組織です。皆様と共に、これからも学習院を支え、より良い学校にする努力を続けて参りたいと存じます。

父母会本部事務局は目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館2階にございます。ご用の方は、ご遠慮なく、ご連絡下さい。

開室時間：月～金 9時～17時

TEL&FAX: 03-3988-3226



「和祭」に参加して

10月10日(土)、11日(日)女子大「和祭」に合わせて、草上会では互敬会館3階草上会室において「バザー」「第十回会員作品展」集會室では「第二回ホームカミングデー」と初試みの「草上会サロン」を企画いたしました。

恒例のバザーは所狭しと品々が並べられ、皆様に喜んでご購入いただきました。

作品展は初参加の方、毎年出展下さる方の力作がセンス良く洋室に飾



草上会

右/ホームカミングデー
左/バザー



られ、訪れた方々を楽しませて下さいました。

10日、集會室で開かれた草上会サロンでは、お菓子とお茶のおもてなしに、久しぶりに母校を訪れた同窓生は青春時代を思い出し、子育て話に花を咲かせて和やかなひと時をすごされました。

翌11日ホームカミングデーは17回

生今井すみこ氏をお迎えし、満席の中で「私と学習院」その後そして今」と題し、26年間のアメリカ生活そして環境デザイナーとして世界的にご活躍の様子を拝聴し、アイデアあふれるお仕事ぶりについてのお話は大変興味深いものでした。

運営委員・幹事が一丸となった準備等を進めたおかげで各イベントは成功裏に終わることができました。

(内田晴子)

第6回 草上セミナー開催 「今日の日本外交 課題と展望」

12月5日(土)、やわらぎホールにおいて「第6回草上セミナー」が開催されました。

今回は「今日の日本外交 課題と展望」私たちは今どこに立っているか」と題し、元外交官で、現京都産業大学教授 世界問題研究所 所長 東郷 和彦氏にご講演いただきました。

ご講演をお願いした2014年の冬は日本の周辺が何かと騒がしく、日本外交が盛んに取り沙汰されており、その後中国の台頭、ISが世界中の問題になるなど、激動の時代を迎えております。

そこで、東郷先生は、まず第1次世界大戦後の世界情勢から説き起こし、現在につながる諸問題について、大変

わかり易いお言葉で解説、ご講演くださいました。

東郷先生の熱意あふれるご講演に会場も熱気に包まれました。熱心なご質問にも丁寧にお答えいただき、終了後行われたご著書販売とサイン会には長い列ができました。

アンケートや会場での感想には「遠い世界の出来事と聞いていたが、身近な問題だということがよくわかり、良かった」「聞きたいことが開けた」という声が多く寄せられました。これらのご意見を今後の企画に生かして参りたいと存じます。

ご後援下さいました女子大学、桜友会には深く感謝申し上げます。また、司会・会場案内・花束贈呈など、お手伝いくださったグローバルビュー部の皆さん方にも心から御礼申し上げます。

(東倉 彰子)



草上会 平成27年度の 主な活動

学習院目白キャンパス

4月12日

● 花見茶屋・ヨーヨーつり



花見茶屋は、温かいお茶とおまんじゅうのおもてなしで来場者にくつろいでいただきました。
ヨーヨーつりは、毎年お子様方に大人気のコーナーです。平成28年度は、4月17日(日)に開催予定です。

オール学習院の集い

5月20日

● 横浜散策

25名の参加者が、元町中華街に集合。
五月晴れのもと、バラ園で満開のバラを堪能した後、由緒ある西洋館が立ち並ぶ山手地区を散策しました。
昼食は中華街「聘珍樓」にて、おいしい料理を囲みながら参加者の交流を深めました。

企画

ホテルオークラ東京

6月14日

第57回草上会総会・懇親会が会員135名の出席の中、開催されました。
総会に引き続いての懇親会では、会食、講演者とのサイン会、写真撮影等、和やかな時間を過ごしました。

● 講演「お菓子と私 ~優雅な夢を追いつけて~」 講師 今田美奈子氏



フランス菓子との出会いから今日までの軌跡を交えながら私たち女性が社会や家庭で活躍していく中で、心に留めたいお話をさせていただきました。
平成28年度は、6月12日(日)ホテルオークラ東京にて開催予定です。

総会・懇親会

互敬会館3階

10月10、11日

● バザー・作品展・ホームカミングデー

- バザーは、毎年卒業生からの寄贈品を多くの学内外の方々にご購入いただき好評を得ております。
- 作品展は、会員の丹精込めた作品が出品されます。力作揃いの作品の前では足を止め熱心に見学する方が大勢いらっしゃいました。
- ホームカミングデーについてはP.34をご覧ください。

和祭参加

互敬会館3階草上会洋室

毎月第2水曜日

新宿区社会福祉協議会に寄贈する「ふきん」縫い、使用済み切手の収集寄付、和祭バザー用の小物作成等の作業を和気あいあいと行っています。



ボランティア

女子大学やわらぎホール

12月5日

講師に東郷和彦氏をお招きして流動的な国際情勢や、日本外交のあり方についてご講演いただきました。
詳細はP.34をご覧ください。



草上セミナー

●詳しくは草上会ホームページをご覧ください。 <http://gakushuin-ouyukai-branch.jp/soujoukai/>

平成27年度 入試の概要

学科	入試の種類		
日本文化学科	一般入試	志願者	640
		合格者	219
		入学者	92
	その他特別入試等	志願者	96
		合格者	81
		入学者	80
	合計	志願者	736
		合格者	300
		入学者	172
国際コミュニケーション学科	一般入試	志願者	941
		合格者	375
		入学者	139
	その他特別入試等	志願者	95
		合格者	76
		入学者	72
	合計	志願者	1,036
		合格者	451
		入学者	211
英語コミュニケーション学科	一般入試	志願者	271
		合格者	122
		入学者	40
	その他特別入試等	志願者	15
		合格者	15
		入学者	12
	合計	志願者	286
		合格者	137
		入学者	52
学部合計	志願者	2,058	
	合格者	888	
	入学者	435	

(平成27年4月1日現在)

平成28年度 入試途中経過

入試区分	学 科	募集 人数	志願者	受験者	合格者	倍率 受/合
一般入試A	日本文化	60	315	305	148	2.1
	国際コミュニケーション	70	880	861	371	2.3
	英語コミュニケーション	30	207	204	110	1.9
一般入試B	日本文化	20	167	153	25	—
	国際コミュニケーション	30	412	356	38	—
	英語コミュニケーション	10	54	46	14	—
海外帰国生徒	日本文化	若干名	12	10	6	1.7
	国際コミュニケーション	若干名	17	9	10	0.9
外国人留学生	日本文化	10	8	8	6	1.3
	国際コミュニケーション	10	8	8	5	1.6
社会人	日本文化	若干名	0	0	0	0
	国際コミュニケーション	若干名	0	0	0	0
推薦A	日本文化	40	41	41	41	1
	国際コミュニケーション	50	46	46	46	1
	英語コミュニケーション	5	2	2	2	1
推薦B	日本文化	10	16	16	12	1.3
	国際コミュニケーション	10	20	20	13	1.5
AO	英語コミュニケーション	若干名	18	18	10	1.8
女子高等科 推薦進学	日本文化	若干名	1	1	1	1.0
	国際コミュニケーション	若干名	0	0	0	—
	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—
総合計	日本文化	140	560	534	239	2.2
	国際コミュニケーション	170	1,383	1,300	483	2.7
	英語コミュニケーション	45	281	270	136	2.0
	合計	355	2,224	2,104	858	2.5

※注：一般入試A方式は補欠繰上合格者を含み、B方式は正規合格者のみ
推薦指定日本語学校出身者を含む(平成28年3月1日現在)

学習院女子大学 学生数 一覧

学 科	日本文化 学科	国際 コミュニケーション 学科	英語 コミュニケーション 学科	合 計	大学院修士課程
1年	172	210	51	433	10
2年	160	220	46	426	10
3年	160	177	45	382	—
4年	169	195	50	414	—
合計	661	802	192	1,655	20

(平成27年12月1日現在)

平成28年度 女子大学奨学金一覧表

※特記がない場合は学部・大学院共に対象。各奨学金の詳細は学生部窓口にお問合わせください。

制度名	金額(円)	募集時期	貸・給別	備考		
安倍能成記念教育基金奨学金	450,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学学業優秀者給付奨学金	学部学生 300,000 大学院生 150,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学大学院研究奨励金	大学院生 35,000	4月上旬	給付	在学期間合計2回限り		
学習院女子大学学費支援給付奨学金	学部学生 第2期授業料相当額	4月中旬	給付	採用1ヶ年		
学習院女子大学奨学金	大学院・学部学生 学費納付金相当額以内	4月中旬	貸与	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学教育ローン金利助成奨学金	在学中に利分給付(年50,000を上限)	揭示による11月下旬~12月中旬	給付	採用1ヶ年 毎年申請		
学習院女子大学海外留学奨学金	500,000以内	揭示による	給付			
学習院女子大学海外短期語学研修奨学金	100,000以内	揭示による	給付			
学習院女子大学海外ボランティア活動奨励金	100,000以内	揭示による	給付			
学習院女子大学協定留学生奨学金	500,000以内	募集しない・推薦制	給付	協定留学生		
学習院女子大学外国人留学生奨学金 及び奨励金	奨学金 200,000	5月中旬	給付	毎年申請		
	奨励金 300,000	募集しない・推薦制		毎年推薦制		
学習院父母会奨学金	学部学生 授業料・施設設備費相当額(100万円を上限)	揭示による11月中旬~1月上旬	給付	採用1ヶ年 1回限り		
日本学生支援機構	学部学生	第1種(無利子)	自宅外通学 月30,000または64,000 自宅通学 月30,000または54,000	4月中旬	貸与	卒業月まで貸与
		第2種(有利子)	希望により貸与月額3万、5万、8万、10万、12万のいずれかを選択			
	大学院生	第1種(無利子)	月50,000または88,000	4月中旬	貸与	修了月まで貸与
		第2種(有利子)	希望により貸与月額5万、8万、10万、13万、15万のいずれかを選択			
日本学生支援機構 私費外国人留学生学習奨励費	月48,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 追加推薦あり		
その他公私機関による奨学金制度		その都度揭示を見てください。				

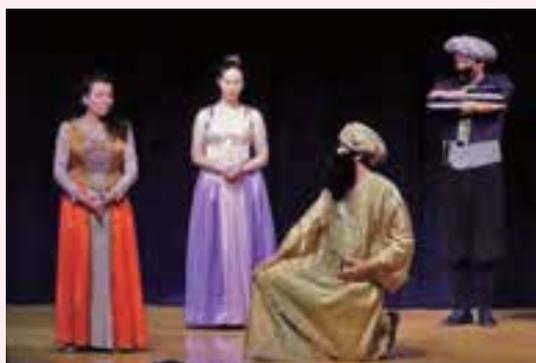
平成28年度 学年暦

平成28年4月~平成29年3月

<p>4 April</p> <p>春期休業 1(金)~5(火) 新入生ガイダンス 1(金)~2(土)、4(月)~6(水) 健康診断 1(金)~2(土) 入学式 4(月) 春学期授業開始 7(木) 雅祭 10(日) 振替休講日 30(土)</p>	<p>5 May</p> <p>開学記念日 15(日)</p>	<p>6 June</p>
<p>7 July</p> <p>春学期授業終了 20(水) 補講期間 21(木)~22(金) 春学期期末試験 23(土)~29(金)</p>	<p>8 August</p> <p>夏季休業 1(月)~9/18(日) 集中講義期間 1(月)~5(金)</p>	<p>9 September</p> <p>春学期追試験 8(木)~9(金) 秋学期ガイダンス 15(木)~17(土) 秋学期授業開始 19(月) 休日開講日 19(月)、22(木)</p>
<p>10 October</p> <p>和祭準備(休講) 7(金) 和祭(休講) 8(土)~9(日) 和祭片付け(休講) 10(月) 開院記念日(開講日) 17(月) 振替休講日 18(火)</p>	<p>11 November</p>	<p>12 December</p> <p>休日開講日 23(金) 冬季休業 25(日)~1/9(月)</p>
<p>1 January</p> <p>授業開始 10(火) 秋学期授業終了 16(月) 補講期間 17(火)~19(木) 秋学期期末試験 20(金)~26(木) 学年末休講 28(土)~3/24(金)</p>	<p>2 February</p> <p>秋学期追試験 13(月)~14(火)</p>	<p>3 March</p> <p>卒業式 19(日) 春季休業 25(土)~31(金) 在学生ガイダンス 23(木)~24(金)、 27(月)~28(火)</p>

ITCL「ヴェニスの商人」公演

英国劇団ITCLによるシェイクスピア劇公演が2015年5月23日(土)、本学やわらぎホールにて行われました。本学の国際文化交流事業のひとつとして2007年より始まり、今年で9年目を迎えた今回の演目は「ヴェニスの商人(The Merchant of Venice)」。本作品は、明治時代、日本で最初に上演された沙翁作品でした。そして面白いことに、それは有名なあの裁判のシーンだけの「何桜彼桜銭世中(さくらどきぜにのよのなか)」という題目で歌舞伎役者によって上演されましたが、このタイトルはなぜか150年前だけでなく、現代の世相をも表しているようで妙です。つまり幸せをつかもうとすると、お金に頼らざるをえない、お金を出しさえすれば、面白く楽しく過ごせる、そんな風潮がますます高まっているからです。楽しく面白い学生生活を送るには、芝居よりまずスマホだ、でもスマホを維持するにはバイトしなきゃ、というわけで芝居見物なんてとてもやってられない、そんな学生が増えたのではないのでしょうか。ですから、この「ヴェニスの商人」を観劇された皆さんはバイト代では買うことのできない、とても豊かですてきな時間を過ごされたことでしょう。



今回の公演ポスターのキャッチコピー「If you wrong us, shall we not revenge?」「あんたらが我々をひどい目にあわせたら、復讐しちやいけないのか?」というシャイロックのセリフは当時のキリスト教社会によって迫害されるユダヤ人の強烈な恨みを表わしています。しかしこの時代から巡り巡って400年後の現代はどうでしょう?戦後70年を迎えた昨年ですが、戦時中、ナチスによりユダヤ民族はホロコーストの恐怖にさらされ、大量虐殺の犠牲者となりました。昨年2月にはシリアにおいて日本人が犠牲となる事件も起きました。銭で人の命は買えなかった、残念です。ところが立場をかえて命を奪った人々から言わせれば「If you wrong us, shall we not revenge?」なのかもしれません。ポーシヤはシャイロックに説きます。「お前が正義を要求するのはわかるが、正義のみを求めれば、人間誰一人救いにはあずかれまい。だから我々は慈悲を求めて祈るのだ。」しかし「正義」を傘に「復讐」で頭がいっぱいになったシャイロックは、「人を裁くな、血は一滴たりとも流してはならぬ」を忘れ、ついには自らが裁かれてしまう。この芝居における正義とは、慈悲とは、裁きとは?いろいろと考えさせられる舞台でした。そして終演後、スタッフの学生たちと役者らによる「国際交流」というもうひとつの舞台も展開されました。記念すべき第10回目の2016年「テンペスト」本学公演は2016年5月21日(土)です。乞うご期待!

(国際コミュニケーション学科 教授 古庄 信)

構内の遺跡見学会を開催しました

Topics
2

戸山キャンパスは、江戸時代には尾張徳川家の下屋敷の一角で、近代には近衛騎兵連隊が置かれていました。昨年夏より、学習院女子中等科・高等科の総合体育館建設に



伴って、建設予定地（中・高等科テニスコート）について、発掘調査が行われ、新宿区と女子中・高等科のご厚意により、11月27日に学生・教職員対象の見学会を開催しました。75名の参加者は、尾張徳川家下屋敷の花壇跡や近衛騎兵連隊の地下倉跡、出土遺物から、地下1mに眠る戸山キャンパスの歴史に思いをはせることができました。

江戸東京野菜の内藤とうがらしを育てています

江戸時代に新宿で栽培が始まった内藤とうがらしは、昭和以降、一度姿を消しましたが、2008年に復活、2015年には品川教授のゼミ生が研究の一環として育てはじめました。その取り組みは、「とうがらし女子」としてNHKテレビ「おはよう日本」の中でも紹介されました。また、本学において「新宿内藤とうがらしサミット」が開催され、活動に取り組む新宿区内の小学校や地域のNPOなど多くの方が参加しました。



Topics
3

「第30回オール学習院の集い」開催のお知らせ

Topics
4

本院では、毎年4月に、学習院父母会、学習院桜友会及び常磐会のご協力を得て「オール学習院の集い」を開催しています。

女子大学の学生団体も参加します。また、第30回の開催を記念して、各パンフレット配布場所にてオリジナルクリアファイルを無料で配布いたします。（配布数には限りがありますので、無くなり次第終了させていただきます。）皆様のお越しをお待ちしております。

なお、開会式及び大合同演奏会入場には、入場券が必要です。一般来場者席の入場券は、当日配付します。詳細は、平成28年3月中旬頃より学校法人学習院のホームページに掲載いたします。

- 日時 平成28年4月17日（日）
午前9時30分～午後4時（雨天決行）
- 会場 学習院目白キャンパス
（豊島区目白1-5-1）
- 備考 詳細は、事務室の窓口で配付するパンフレット又はホームページ
（<http://www.gakushuin.ac.jp/ad/somu/all/>）をご覧ください。



学習院女子大学

Gakushuin Women's College

学習院女子大学 事務統括部

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1 Tel 03(3203)1906 Fax 03(3203)8373
ホームページ <http://www.gwc.gakushuin.ac.jp/>

